

一		電信設備ノ維持、改新及擴張	六,〇三七,〇〇〇	四,〇〇六,〇〇〇
a		豫備品調達	—	—
b		技術上ノ設備	九六〇,〇〇〇	—
c		架空及地下線網	四三三,〇〇〇	一八一,〇〇〇
d		管送郵便設備	七四二,〇〇〇	一七三〇,〇〇〇
e		維持ヲ爲スヘキ設備ノ増加ノ結果及伯林ノ電信 本局「ヘツランス、ラヂオ」業務移轉ノ結果及伯 林及「ハムブルグ」ニ於テ管送郵便設備擴張ノ結 果經費増加	—	—
二		外國電信企業ト清算	二八,〇〇〇,〇〇〇	—
四		電話	三四,〇三七,〇〇〇	四,〇〇六,〇〇〇
一		電話設備ノ維持、改新及擴張	一二,三六九,〇〇〇	一七,〇九五,〇〇〇
a		豫備品調達	—	—
b		技術上ノ設備	二四,二〇〇,〇〇〇	八一,三五,〇〇〇
二		外國電信企業ト清算	—	—
第三款計			二八,〇〇〇,〇〇〇	—

二		維持ヲ爲スヘキ設備ノ膨脹ノ結果事業費ノ増加	六,五〇〇,〇〇〇	—
二		外國ノ電話企業ト清算	—	—
一		外國トノ間ノ電話通信ノ増加ノ結果經費増加	一二八,八六九,〇〇〇	一七七,九三五,〇〇〇
無線通信		第四款計	—	—
無線通信		無線通信設備ノ維持改新及擴張、無線放送特許料 ヲ無線放送會社ニ分配	四八,六五〇,〇〇〇	一〇,五六〇,〇〇〇
一		特許料ノ分配見積金額ハ收入第五款ニ見積リタ ル金額ヲ超過スル特許料增收ノ百分ノ六十二ニ超 過スルコトヲ得	—	—
第三款計			—	—



a 豫備品調達		作業	設備
b 内國事務		三七,100,000	四,七九〇,〇〇〇
c 外國事務		二,五五〇,〇〇〇	五,七七〇,〇〇〇
特許料中ヨリ無線放送會社ニ分配スヘキ部分ハ三千四百三十萬「ライヒスマルク」ヲ計上セリ			
bノ經費増額ハ維持スヘキ設備ノ増加ノ結果竝ニ通信ノ増進及無線放送加入者數ノ増加ノ結果			
cノ經費増加ハ外國トノ無線通信ノ増進ノ結果ナリ			
外國ノ無線企業ノ清算			
外國トノ無線通信増進ノ結果經費増額			
第五款計		五五,〇〇〇	
B 一般經費			
a 人件費		四八,七五〇,〇〇〇	一〇,五六〇,〇〇〇
獨逸通信事業ノ管理會議			

管理會議ノ議員ニ賠償(立替金償還)

賠償事項増加ノ結果増加

第六款計

七〇,〇〇〇

第七款職務上ノ給與金第八款其ノ他ノ給與金第九款福利及第十款待命給受領者竝ニ元通信事業従事者及其ノ家族ニ法律上ノ義務ニ基ツキ支拂

右ハ追加豫算トシテ提出ノ筈

一,三三九,三五〇,〇〇〇

一四,一四一,〇〇〇

地所及建物

事業用地所ノ獲得

事業用建物ノ獲得、新築、改築及増築ニシテ三萬

「ライヒスマルク」以上ノモノ

同上三萬「ライヒスマルク」以内ノモノ、設計其ノ

他ノ豫備作業、事業用地所及建物維持

八,三三〇,〇〇〇

三,一五五,〇〇〇

一六,四七〇,〇〇〇

八,五〇〇,〇〇〇



事務室ノ修繕及必要ナル改良竝ニ自働交換作業ノ着々實施ノ爲經費増加

事業用地所及建物ニ對スル租税及負擔

事業用地所及建物ニ對スル賃借料

通信事業従事者ノ住宅ノ増加竝住宅用地及住家ノ維持、貸借、租税及負擔

住宅難ニ苦シメル通信事業従事者ノ數ハ一千九百二十八年末一萬二千九百七十九人ニシテ一千九百二十七年末ノ一萬四千八百七十九人ニ比スレハ凡ソ八分ノ一以上ノ減少ヲ見ル然レトモ此ノ減少ニ對シテハ一方ニハ新結婚給與候補者竝ニ轉勤ニヨリ更ニ著シキ増加アリ其ノ結果トシテ住宅難ハ尙ホ著大ナルモノアリテ之カ輕減ノ爲ニスル從來ノ計畫ハ一千九百二十九年ニ於テモ繼續セサルヲ得ス而モ前年度ヨ

一、九二五、〇〇〇  
一五、七六〇、〇〇〇  
二、四五〇、〇〇〇

一七、〇五五、〇〇〇

リモ増額ヲナセルハ住宅渴望者ノ甚タシク増加セルコト及通常ノ住宅状態ヲ速ニ回復スルコトハ獨リ事業上ノミナラス尙一般ノ見地ヨリスルモ亦非常ニ重要ナルコトニ鑑ミテ自ラ正當ナリ豫定ノ金額ハ前年中着手シタル住宅建築ヲ完成シ通信事業所有ノ居住用建物及假家屋ヲ通信事業所有地ニ建造シ、獨逸通信事業ノ所屬員ノ爲ニ新住宅ヲ作ル者ニ建築資金貸付、使用ニ堪ユヘキ新築借家(新築貸借契約)ヲ得ル爲メ家賃補給ヲナシ竝ニ用途規定(Zwickbestimmung)第三項ニ依ル抵當ノ引受ヨリ生スル義務ヲ果スニ用ウルモノナリ尙此ノ資金ニヨリ住宅ナキ通信事業従事員ニシテ適當ノ賠償金額ニヨリ家ノ古手ヲ買取ラントスル者ニ對シ賠償額ノ補助ヲ與ヘントス



		五三〇	
		第十一款計	
一	事務用消耗品、什器及器具	四四、八四五、〇〇〇	五七、六五五、〇〇〇
	事務用消耗品(a)竝ニ備品及器具ノ維持、改新及增加	三七、六四五、〇〇〇	一、六八〇、〇〇〇
	aノ増額ハ實際ノ需要ニ應スルモノ、其他ノ増額ハ大數ノ新築ニヨリ、廣ク村落郵便事務ヲ動力化スルニヨリ、配達事務ヲ改良スル爲メ自動自轉車ヲ使用スルニヨリ、郵便切手自働販賣器ヲ多數ニ製作スルニヨリ及業務ヲ益々機械化スル爲宛名印刷其他ノ機械ヲ益製作スルニヨルナリ	三〇〇、〇〇〇	三八〇、〇〇〇
二	補助作業點燈及動力設備及工場ノ設置及維持	一九、三六〇、〇〇〇	
三	印刷物	五七、三〇五、〇〇〇	二、〇六〇、〇〇〇
一三	雜費	六四、六五、〇〇〇	
一	賠償料金還付等		
		第十二款計	

		五三一	
		第十三款計	
二	小包持去人ニ報酬支拂ノ結果増加	一五〇、〇〇〇	
	大臣交際費	五、七二七、〇〇〇	
	伯林ニ二回國際會議開催ノ爲増額		
三	種々ノ支出		
	a 裁判費用、公證人料、印章捺捺料等	四、一八五、〇〇〇	
	b 官吏ノ専門知識養成	四七、〇〇〇	
	c 其ノ他	一、四八五、〇〇〇	
四	無料		
五	現業及通信改良		
	Betriebs und Verkehrs Verbesserung		
一四	資本及利息	一三、三三三、〇〇〇	
一	貸金ノ爲及外國ノ企業ニ協力ノ爲資金ノ交付借入		四、五八八、〇〇〇
	郵便局舎ノ建設者宛抵當ニ對スル經費増加		九、五一九、〇〇〇
二	債務辨濟		



		一五	
三	借入金及抵當ノ利息	三三,二八〇,〇〇〇	
	第十四款計	三三,二八〇,〇〇〇	
一五	D 貸借對照	三三,二八〇,〇〇〇	
一	減價	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	△ 二〇〇,〇〇〇,〇〇〇
	動産不動産増加ノ結果減價ニ對スル積立金ノ増加		
二	自作ノ設備ニ對スル一般費用	△ 五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
三	未納ノ事業収入及未拂ノ事業支出		
四	伯林ボルジグヴァアルデノ郵便自動車工場ニ於ケル財産異動		

		一六	
五	無償ノ所得ヨリ生スル利得	一九五,〇〇〇,〇〇〇	△ 一九五,〇〇〇,〇〇〇
一六	E 利得		
一	事業資金		
	自然必要ナル事業資金ヲ更ニ充タス爲ニハ豫算ヲ以テセス		
二	豫備金		
	豫備金ハ法定ノ額ニ達シタルカ故ニ更ニ金額ノ拂込ヲナサス		
三	設備ノ經費(收入第七款第二項參照)ノ支辨ノ爲同一ノ金額ハ收入ノ第七款第二項設備ノ欄ニ掲ケアリ	一〇六,七三,〇〇〇	
四	繰越得ヘキ金額		
	a 前年度ヨリ		
	b 次年度ニ		



五 剩餘金ヨリ獨逸國庫ニ拂込	一六,五〇〇,〇〇〇	
此ノ金額中ニハ積立金ノ利息ヲ包含セリ		
第十六款計	二,三三,二一三,〇〇〇	
支出第一款ヨリ第十六款ニ至ル合計	二,三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇九,七九一,〇〇〇
収入第一款ヨリ第七款ニ至ル合計	二,三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇九,七九一,〇〇〇

(原註) 収入及支出ハ秩序的ナル商業上ノ二重簿記ニ於テ實行ヲ要スルト同一ノ見地ニヨリ作業ト設備ニ分割セリ

作業ニハ収入又ハ支出ノ内獨逸通信事業ノ總資産ノ増減トナリ隨テ損益ニ屬スルモノハ總テ之ヲ作業ニ記入セリ故ニ一切ノ作業収入及事業ノ維持ノ爲ニ必要ナル一切ノ支出ヲ作業ニ組入レタリ

収入及支出ノ内金庫ノ出納ト財産ノ成立部分ノ増減ト相對立スルモノハ總テ之ヲ設備ニ組入レタリ  
 例ヘハ収入ニ付テ物品ノ賣却ヨリ生スル収益ト地所購入ノ際引受クルコトアルヘキ抵當ハ設備ニ組入ル

支出ノ内物件ノ成分ノ増加ニ對スル費用ト改良ニ對スル費用及使用ニ堪エサルニ至リ又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ廢棄セル物件補充ノ費用ハ概シテ設備ニ組入ル、一部改新又ハ一部補充調達ノ費用ハ若シ之レカ事情ニヨリ獨立ニ更ニ使用スヘキ部分ニ係リ又ハ部分改新ニヨリ全體ノ壽命カ普通ノ程度以上ニ延長スルトキニ限リ之ヲ設備ニ組入ル

例ヘハ電信及電話建築ニ於テ原料又ハ半製品ヲ使用シテ設備ヲ自製セルトキハ單ニ使用シタル原料品ノ費用ノミナラス尙此ノ生産的俸給及給料ヲ設備ニ組入ルルナリ



第三輯

（以下為極淡之印刷文字，內容難以辨識，疑似為目錄或序言）



第三編

目次

- 一 獨逸ノ佛蘭西トノ通信事業特別會計制度ノ比較……………五三七頁
- 二 瑞西郵便電信事業ノ財政……………五五一頁
- 三 英國通信事業財政ト其ノ商業的計算……………五七七頁

獨逸ノ佛蘭西トノ通信事業特別會計  
制度ノ比較

五三七頁



獨逸卜佛蘭西卜ノ通信事業特別會計  
制度ノ比較

(法律上ノ對比)

一 獨逸ノ通信事業特別會計ノ概況 五三  
二 佛蘭西ノ通信事業特別會計ノ概況 五五  
三 獨逸ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 五七  
四 佛蘭西ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 五九  
五 獨逸ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 六一  
六 佛蘭西ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 六三  
七 獨逸ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 六五  
八 佛蘭西ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 六七  
九 獨逸ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 六九  
十 佛蘭西ノ通信事業特別會計ノ法律上ノ對比 七一



目次

第一 法律ノ基礎	五三九頁
第二 豫算ノ編成	五三九頁
第三 事業用財産ノ分離及承繼方法	五三九頁
第四 基金制度	五四〇頁
第五 公債及借入金(事業ノ改良擴張ノ方法)	五四二頁
第六 事業純益金ノ處分	五四三頁
第七 事業缺損ノ場合ノ處置 <small>(收入豫算不足又ハ支出豫算超過ノ場合ノ處理方法)</small>	五四四頁
第八 豫算及管理ノ監督(財政的獨立)	五四五頁
第九 事業ノ諮問機關	五四七頁
第十 會計ノ檢查	五四七頁
第十一 各種勘定ノ設定ニ關スル事項	五四八頁
第十二 通信事業特別會計ト國庫トノ關係	五四八頁



## 獨逸ト佛蘭西トノ通信事業特別會計制度ノ比較

### 第一 法律ノ基礎

#### (イ) 獨逸

千九百二十四年三月十八日通信事業財政法ナル單行法ヲ發布シ以テ特別會計制度ヲ樹立ス

#### (ロ) 佛蘭西

千九百二十四年ノ年度豫算法(獨佛等ニ於テハ豫算ハ法律ノ形式ヲ以テ作成ス 註イ)獨逸憲法第八十五條第二項ロ)佛蘭西憲法元老院ノ組織ニ關スル規定(第八條但書)ノ制定ニ際シ其ノ第二章ニ特ニ附帶豫算ナル一章ヲ新設シタルニ止ル

### 第二 豫算ノ編成

#### (イ) 獨逸

通信事業特別會計ノ豫算ハ一個ノ獨立豫算トシテ一般豫算ヨリ獨立分離シテ作成セラレ一般會計ノ豫算ト關係ナク審議セラル

#### (ロ) 佛蘭西

通信事業特別會計ノ豫算ハ附帶豫算トシテ作成セラレ一般豫算ニ從屬シテ設ケラル(豫算法第七十條)從



テ一般豫算ノ不成立ノ場合ニハコノ特別會計ノ豫算モ亦成立セス

第三 事業用財産ノ分離及承繼

(イ) 獨逸

國有財産ニシテ獨逸郵便及電信ノ用ニ供シ又ハ之ニ依リテ收得セラレタルモノ竝ニ公法及私法上獨逸通信事業ニ屬スル一切ノ權利義務ハ通信事業ノ特別財産トシテ爾餘ノ國有財産及國ノ權利義務ト分離ス通信事業ノ債務ニ對シテハ單ニ右特別財産ノ限度ニ於テ負擔スルモノトシ尙特別財産ハ國ニ屬スル其ノ他ノ義務ヲ負擔セサルモノトス(通信事業財政法第一條)

斯クノ如ク爾餘ノ財産ト分離シタル通信事業ノ特別財産ハ之ヲ通信事業カ國家ノ一般會計ヨリ從來ノ財産状態ノ儘ニテ引繼クコトトシタルヲ以テ獨逸通信事業特別會計ニ在リテハ一般會計ヘノ元本銷却ニ關スル問題ヲ生セス

(ロ) 佛蘭西

通信事業用財産ハ特別會計ノ財産トシテ爾餘ノ一般財産ヨリ分離スルモ獨逸ト異リ條件ニ付一般會計ヨリ承繼スルコトトセシカ故ニ承繼財産ノ評價及ヒ一般會計ヘノ之カ銷却ノ問題ヲ生ス之レカ評價ハ佛國通信事業附帶豫算法(千九百二十四年ノ豫算法)施行細則第六十條及第六十二條ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノト定メ又銷却ヲ爲スヘキ財産ノ銷却方法ハ右施行細則ノ第六十三條以下第六十六條迄ニ規定セリ

第四 基金制度

(イ) 獨逸

一億ライヒスマルクニ達スル迄豫備基金トシテ毎年ニ於ケル事業收入ノ千分ノ八ノ積立金、事業純益及前年度ニ於ケル豫備基金ノ利子ヲ積立ツ此ノ豫備基金ハ年度缺損額ノ填補ニ充ツルモノトス

豫備基金ハ現金ニテ又ハ公債ニテ確實ニ保管ス(改正財政法第八條)

(ロ) 佛蘭西

通信事業特別會計ハ左ノ三種ノ基金ヲ置ク(豫算法第七十二條)

(1) 倉庫基金

本基金資源ヲ二億萬法トシ中央及地方倉庫品ノ價額ヲ以テ之ニ充テ不足額ハ特別會計第二部特別豫算ニ計上ス

(2) 銷却基金

特別會計第二部ノ豫算ヲ以テ支辨セラレタル設備材料ノ原價ヲ銷却スルモノトス本基金ハ特別會計(註) 附帶豫算ハ二部ヨリ成ル第一部ニハ事業上ノ收入支出ヲ掲ケ第二部ニハ創設費及其ノ費用ニ充テラルル特別資源ヲ掲ク) 第一部ニ計上セル豫算ヨリ支辨ス此ノ銷却歩合ハ郵政大臣、大藏大臣ト協議シテ之ヲ決定ス



(3) 豫備基金

豫想セサル事情ニ因ル事業ノ缺損及銷却未済ノ設備材料ノ滅失毀損ノ場合ニ備フルモノトス本基金ハ特別會計第一部ノ純益金ヲ以テ積立ツ最高額ハ一億五千萬法ト定ム

豫備基金及銷却基金ヨリノ繰入使用ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス又之ヲ特別會計第一部ニ繰入ルヘキヤ第二部ニ繰入ルヘキヤ及此繰入金ヲ以テ充ツル支出豫算ハ大藏大臣ノ副署セル命令ヲ以テ定ム(佛法、第七十二條)

第五 公債及借入金(事業ノ改良擴張ノ方法)

(イ) 獨逸

獨逸通信事業特別會計ノ支出ハ其ノ收入ヲ以テ支辨スヘク一般會計ヨリノ繰入レハ之レヲ爲サス公債ノ發行又ハ借入金ヲ爲シ得ヘキハ事業設備ノ擴張改良ノ爲ニシテ且事業收入ヲ以テ利拂及償還確實ナル場合ニ限ル(財政法第七條)公債及借入金ノ利子及償還金ハ其ノ收入ヨリ支辨スヘク之カ爲メニ更ニ公債ノ發行又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得ス

公債ノ募集、擔保ノ約定、抵當及保證ノ引受ハ豫メ郵政大臣及大藏大臣ノ同意ヲ要ス通信特別會計ノ公債ハ法律ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲ササリシトキハ一般公債ノ管理ニ付常ニ適用スル原則ニ從ヒ國債局之ヲ管理ス此場合ニ於テ大藏大臣ニ屬スル權限ハ大藏大臣、郵政大臣ト協同シテ之ヲ行フ公債ノ募集ハ郵政大臣

國債局ト共同シテ之ヲ行フ(同上第八條)

(ロ) 佛蘭西

佛國通信特別會計ニ於テハ支出豫算超過ノ場合ニハ豫備基金ヲ以テ之ヲ支辨スヘキモ(豫算法第七十四條第三項)此ノ積立資源ナキカ又ハ充分ナラサルトキハ議會ノ協賛ヲ得テ一般會計ヨリ之カ必要ナル金額ヲ貸付クルモノトス而シテ此ノ貸付金ニハ利子ヲ附スヘキモノトス(同上第四項)又公債ノ募集ニ付テハ通信事業特別會計ノ第二部ノ支出(創設費、擴張改良費)ニ充ツル爲メ大藏大臣ハ毎年豫算ニ定メラレタル限度ニ於テ最長三十年内ニ償還スル公債ヲ發行スルコトヲ得獨逸ニ於テハ通信事業カ其ノ資源ヲ求ムル爲直接公債募集ニ當ルカ佛蘭西ニテハ豫算法ハ單ニ募債承認竝ニ其ノ制度ヲ規定セシモノニシテ募債其ノモノハ大藏大臣ニヨリ實行セラル公債發行ニ關スル一般手續ハ之レニヨリテ何等變更ヲ來スモノニハ非ルナリ又右承認セラレタル公債ノ發行迄大藏大臣ハ通信特別會計ニ對シ該募債額以内ノ貸付金ヲ爲スコトヲ得(豫算法第七十五條)

佛國會社、組合、其ノ他ノ企業ノ發行スル債務ニ對シテ賦課スル各種租稅ハ通信事業ノ爲メニ發行シタル公債ニ適用ス發行額面、期日、名義書換形式、償還及利子支拂ノ時期及方法竝ニ之ノ公債ニ課セラル諸種税金ノ支拂方法等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム通信事業ノ爲發行セラレタル公債ハ千八百七十一年九月十六日ノ法律ニ依リ規定セラレタル用途及供託ニ充ツルコトヲ得



第六 事業純益金ノ處分

(イ) 獨逸

純益金ヲ以テ擴張改良費ヲ支辨スルコトヲ得(七條)

豫備基金一億ライヒスマルクニ達シタル後ハ事業ノ純益金ハ一般會計ニ繰入ルモノトス(改正財政法第八條)

(ロ) 佛蘭西

特別會計第一部收入豫算超過ハ(第一)ニ曩ニ生セル事業缺損填補ノ爲一般會計ヨリノ一時貸入金ノ償還ニ充テ(第二)ニ特別會計開始前日迄ノ未銷却元本ノ銷却及七十二條ノ豫備基金ノ積立ニ充ツ(第三)ニ右ノ元本ニシテ銷却シ終リ且豫備基金規定ノ一億五千萬法ニ達セルトキハ收入豫算超過ハ一般會計ニ繰入ルモノトス(豫算法第七十四條)

又年度支出ニシテ所定豫算ニ達セサリシトキハ其ノ未使用額ハ次年度年割額ニ追加スルコトトス(豫算法第八十二條第三項)

第七 事業缺損ノ場合ノ處置(收入豫算不足又ハ支出豫算超過ノ場合ノ處置方法)

(イ) 獨逸

事業缺損ノ場合ニハ豫備基金ノ制度アルヲ以テ先ツ之レニ依リテ其ノ填補ニ充ツルモノトス(財政法第八

條) 豫備基金ヲ以テハ充分填補シ得サルトキト雖通信特別會計ノ支出ハ其ノ收入ヲ以ツテスヘク一般會計

ヨリノ繰入レハ之ヲ爲サス(財政法第七條第一項及第三項) 又借入金若ハ公債ノ募集ニモ依ルコトヲ得サルナリ爾餘ノ缺損額ハ次年度ニ繰越スヨリ他ニ途ナキナリ

(ロ) 佛蘭西

獨逸ニ於ケルト同シク事業缺損ノ場合ノ救済ノ爲豫備基金ヲ設ケ以テ缺損額ノ填補ノ爲ニ支辨スルモ此ノ積立財源ナキカ又ハ充分ナラサルトキ(佛蘭西ニテハ豫備基金ハ純益金ヲ積立ツルモノナルヲ以テ純益ナキトキハ積立金ナカルヘシ、獨逸ニテハ事業收入ノ千分ノ八ノ積立金ハ純益金ノ有無ニ關セス爲スヘキコト上述ノ如シ)ハ議會ノ協賛ヲ得テ一般會計ヨリ之カ必要ナル金額ヲ貸付クルコトヲ得(豫算法第七十四條第五項) 此ノ貸付金ニハ利子ヲ附ス

第八 豫算及管理ノ監督(財成的獨立)

(イ) 獨逸

獨逸通信事業ニ對シテハ其ノ豫算ニ對シ最高權ヲ認メ其ノ歲入ヲ處分シ且自由ニ其ノ歲出ヲ處理スルノ權能ヲ認メラレ議會及聯邦參議院ハ豫算及追加豫算ヲ議決スルコトナク此等必要ナル財政的措置ニ對シテハ議會等ノ協賛承認ヲ要セス議會的監督ヲ脱シ財政的個性ヲ與ヘラル(通信事業ノ意思決定機關ハ管理會ナリ)



通信事業ノ管理ニ關シテハ郵政大臣ハ法律ニ從ヒ且通信及獨逸經濟ノ必要ニ適應シテ通信事業ヲ管理スヘキコトニ付國議會ニ對シ其ノ責ニ任ス之カ爲メ特ニ郵政大臣ノ俸給ハ國一般豫算中ニ計上シ憲法ノ規定ニ從ヒ聯邦參議院及國議會ノ議決ヲ要ストシ又前會計年度ニ關スル事業報告ハ損益計算表及貸借對照表ヲ添付シテ之ヲ國議會及聯邦參議院ニ提出スルヲ要スルモノトス(財政法第二條)

通信事業管理會ハ事業執行ニ付郵政大臣ヲ補佐シ法規ノ原則ニ違反セサルヤヲ監督シ且重要ナル財政上ノ處分ハ之ノ議決ヲ要スルモノトス(同上第六條)而シテ管理會ノ議員ニハ國議會及聯邦參議院ヨリ各十名ヲ推舉スルヲ以テ(改正法第三條第二項)國議會及聯邦參議院ハ管理會ヲ通シ間接ニ財政上郵政大臣ノ監督ヲ爲スモノト看ルヲ得ヘシ但シ管理會ノ豫算議定權ハ左ノ制限ヲ受ク

(1)管理會ハ郵政大臣ノ提議以上ニ支出豫算ヲ增加スルノ權限ナシ(財法第六條第二項)

(2)郵政大臣管理會ノ議決ノ執行ヲ國ノ利益トシテ其ノ責ニ任スル能ハスト信スルトキハ同大臣ノ稟請ニ依リ政府之ヲ裁決ス此裁決ニ對シテハ三ヶ月以内ニ國議會及聯邦參議院一致シテ廢止ノ議決ヲ爲スコトヲ得(同上第三項)

(ロ) 佛蘭西

佛蘭西ニ於テハ通信事業ニ對シ其ノ豫算ニ對シ最高權ヲ認メス其ノ歲入ヲ處分シ且自由ニ其ノ歲出ヲ處理スルノ權能ナク該事業ノ總豫算及追加豫算ヲ決定スルハ從來ノ如ク議會ニシテ此等必要ナル財政的措置ニ對シテハ議會ノ協賛承認ヲ得ルコトヲ要ス

佛蘭西ニ於ケル通信事業顧問會ハ獨逸ニ於ケル管理會ト大體相似タルモノニシテ右顧問會ニハ一般業務組織、吏員ノ階級身分俸給、工事計畫豫算案其ノ他議會ニ提出スル一切ノ財政案及通信事業ニ關スル命令(大統領及省令)等ニ關スルモノハ一切之ヲ附議セサルヘカラス之ヲ要スルニ郵政大臣ニ對スル關係ニ於テハ通信事業顧問會ハ第一次ノ監督者、議會ハ之ヲ第二次ノ監督者ト看ルコトヲ得ヘシ

第九 事業ノ諮問機關

(イ) 獨逸

通信事業管理會ハ監督的事務ノ外尙消極的事務トシテ郵政大臣ノ諮問ニ答フルモノトス(財政法第六條第四項)

(ロ) 佛蘭西

通信事業顧問會ハ郵政大臣ノ附議ニ係ル事項ヲ議スルノミナラス其ノ他郵政大臣ヨリ諮問セラレタル一切ノ事項ニ付意見ヲ陳フルモノトス(佛通信事業顧問會官制第四條)ルコト獨逸ノ管理會ト異ナラス

第十 會計ノ検査

(イ) 獨逸

郵政大臣ハ會計検査院ノ検査ノ爲年度計算書並ニ損益計算表ヲ財政法第十五條ノ規準ニ依リ同院ニ提出ス



ヘク會計検査院ハ検査シタル計算ヲ管理會ニ移牒シ管理會ハ責任解除ニ關スル決議ヲ爲スモノトス（財政法第十一條第一項）尙會計検査ニ關シ通信事業ハ適當ナル検査ノ必要ニ應スルヲ要スルヲ以テ會計検査院ト特別ノ協定ヲ爲スヘキモノトシ（同上第二項）意見相違ノ場合ニ於テハ政府之ヲ裁決スルモノトセリ（同上第三項）

(ロ) 佛蘭西

通信事業特別會計ノ會計ハ會計検査院ノ検査ニ服スヘキコト獨逸ニ同シ右會計検査ノ方法トシテ郵政省ニ通信事業特別會計事務ヲ處理統一セシムル爲メ會計検査官ヲ置キ該官吏ハ會計検査院ノ審査ニ服スヘキモノトセリ（豫算法第七十八條第一項）

第十一 各種勘定ノ設定ニ關スル事項

(イ) 獨逸

通信事業ノ收支ヲ明カニシ資産状態ヲ明確ニスル爲メ收入及支出ハ之ヲ收益勘定ト資本勘定トニ分ツ

(ロ) 佛蘭西

佛國通信事業特別會計ハ其ノ豫算ヲ二部ニ分チ第一部ニハ事業上ノ收入支出ヲ、第二部ニハ創設費及其ノ費用ニ充テラルル特別資源ヲ掲ク（法第七十條）而シテ本會計ニハ倉庫基金（用品資金）銷却基金、豫備基金ノ三基金ヲ置ク（法第七十二條）ノ結果本會計ハ

五個ノ勘定ニ依リ整理セラル（施行細則第五章）

第十二 通信事業特別會計ト國庫トノ關係

(イ) 獨逸

通信事業特別會計ハ事業純益金及豫備基金ヲ國庫ニ寄託スヘキコトトセラル但シ之レニハ利息ヲ附スルコトナシ（財政法第八條）

(ロ) 佛蘭西

佛國通信事業特別會計ニ於テハ豫備基金ノ外銷却基金、公債發行ニ依ル遊金其ノ他郵便電話業務上收受スル現金ハ一切國庫ニ寄託スヘキモ豫備基金及銷却基金竝ニ公債發行ニ依ル遊金ノ寄託ニハ利息ヲ附スルコトトシ（附帶豫算法第七十二條及第七十五條）郵便電話業務上收受スル現金ハ無利子ニテ國庫ニ寄託スルモノトス（同上第七十六條第一項）



（一）郵便事業の概況  
（二）電信事業の概況  
（三）郵便物の取扱  
（四）郵便物の配達  
（五）郵便物の運賃  
（六）郵便物の保額  
（七）郵便物の賠償  
（八）郵便物の紛失  
（九）郵便物の盗難  
（十）郵便物の遺失  
（十一）郵便物の損傷  
（十二）郵便物の汚損  
（十三）郵便物の腐敗  
（十四）郵便物の霉爛  
（十五）郵便物の虫食  
（十六）郵便物の鼠咬  
（十七）郵便物の火災  
（十八）郵便物の水災  
（十九）郵便物の地震  
（二十）郵便物の其他

目次

瑞西郵便電信事業ノ財政

一、郵便事業の概況  
二、電信事業の概況  
三、郵便物の取扱  
四、郵便物の配達  
五、郵便物の運賃  
六、郵便物の保額  
七、郵便物の賠償  
八、郵便物の紛失  
九、郵便物の盗難  
十、郵便物の遺失  
十一、郵便物の損傷  
十二、郵便物の汚損  
十三、郵便物の腐敗  
十四、郵便物の霉爛  
十五、郵便物の虫食  
十六、郵便物の鼠咬  
十七、郵便物の火災  
十八、郵便物の水災  
十九、郵便物の地震  
二十、郵便物の其他



目次

一、瑞西聯邦ノ一般行政ト鐵道行政	五五三頁
二、聯邦ノ行政ト聯邦ノ事業	五五四頁
三、郵便及電信行政ノ組織	五五四頁
四、郵便電信電話事業ノ財政方針	五五四頁
五、獨立經營ヘノ進展	五五六頁
六、簿記方法	五五八頁
七、商業簿記制度ヘノ進展	五五九頁
八、減價	五五九頁
九、財政的要求	五六一頁
一〇、郵便、電信、電話事業カ聯邦收入ノ源泉タルコト	五六二頁
一一、純益中ヨリ準備金若干ヲ引去ルヘキコト	五六五頁
一二、郵便料金ト生活費ノ増大其ノ他	五六七頁
一三、郵便料値下問題	五六九頁
一四、郵便事業財政ト電信事業財政トノ差異	五七〇頁



一五、業務別計算ノ必要……………五七三頁

一六、業務別計算……………五七四頁

一七、局所別計算……………五七五頁

一八、豫 想……………五七五頁

### 瑞西郵便電信事業ノ財政

(ユニオン、ポスタール五十二卷二月號四十二頁以下及同三月號七十二頁以下  
 所載一九二六年三月八日バーゼル經濟統計學會ニ於ケル瑞西郵便電信長官ヲ  
 インホルド、フラー博士ノ講演中ヨリ)

#### 一 瑞西聯邦ノ一般行政ト鐵道行政

瑞西聯邦ノ行政ハ之ヲ二大別スルコトヲ得聯邦ノ一般行政竝ニ鐵道行政之ナリ今此ノ二大別ヲナス原因ヲ尋ヌルニ聯邦ノ一般行政ト謂フ時我等ハ鐵道以外ノ總テノ行政機關ニヨル行政ヲ意味シ而シテ鐵道ニ關シテハ聯邦ハ唯運送業務ノ經營者タルノミ、然レトモ此ノ見解ハ正當ナラサルヘシ、何トナレハ從來一般行政ニ包含シテ而モ政府カ權力ノ主體トシテ臨マサルモノ存シタレハナリ少クモ權力ヲ用ユルハ偶然的ニシテ本質ニ於テ鐵道ト同シク經濟的性質ヲ有スル聯邦ノ企業タルモノ存スルナリ其ノ首位ニ在ルモノヲ郵便及電信行政トス誠ニ兩者共許可ヲ與フルノ權ヲ與ヘラレ、又夫レニ從フ上位ノ監督權ヲ有スレト之等ハ二次的重要サヲ有スルニ過キスシテ、郵便、電信、電話ノ事業ソレ自身ヲ遂行スルヲ以テ本來ノ目的トス郵便事業中ニハ旅客、書狀、小包ノ運送、爲替及集金業務竝ニ郵便小切手業務ヲ包含シ電信業務中ニハ電報ノ送達及電話ノ交換業務ヲ包含ス之等兩者ノ行政事務ノ範圍ニ於テハ人民ノ直接要求ヲ満足セシムレハ足ル國家ハ人民ノ爲ニ報償ヲ得テ業務ヲ行ヒ而シテ利用者ハ役務ノ經濟的價值ニ相當スル報償ヲ支拂フナリ即



チ事業ノ目的性質ヨリ論スレハ郵便、電信行政ハ聯邦ノ一般行政ヨリモ寧ロ鐵道行政ニ類似スルモノナリ

## 二 聯邦ノ行政ト聯邦ノ事業

若シ我等聯邦行政ノ組織ヲ系統的ニ分類セント欲スレハ境界線ヲ政府事務ト政府ノ行フ經濟事業トノ間ニ置カサルヘカラス前者ハ造幣局、造兵廠等ノ補助機關ヲ含ミテ最狹義ノ「國家事務」トモ稱スヘキモノニシテ正シク政府ノ職能ト稱セラルル總テノ事務ヲ包含ス、之ニ反シ運輸交通事業ハ凡ソ「國家企業」トモ稱スヘキモノニシテ眞實經濟の事業ナリ其ノ報償ニ相當スル反對給付ヲ爲セハ足り之ヲ經濟的進歩の見地ニ於テ經營スレハ可ナリ

## 三 郵便及電信行政ノ組織

鐵道行政ヲ聯邦ノ一般行政ヨリ通常分離スル所以ハ其ノ組織的理由ニ基クヨリモ寧ロ其ノ有機的理由ニ基クモノナリ即チ鐵道ハ行政的ニ又財政的ニ聯邦ノ一般行政ヨリ甚シク獨立スレト郵便電信行政ハ之ト異リ最終ニ於テハ聯邦ノ一般行政ニ合一サルナリ

## 四 郵便電信電話事業ノ財政方針

以上ニ郵便、電信、電話事業ノ組織ヲ論シタルハ余ノ興味ヲ有スル郵便、電信、電話事業ノ財政的獨立ノ問題ヲヨリ容易ニ了解セシメンカ爲ナリ尤モ組織ノ問題ハ財政ノ問題ト密接不可離ノ關係ニ在ルニ非ス若シ便宜ノ爲通信事業ヲ組織上ハ最終ニ於テ一般行政ノ中ニ合一スルモ少クモ郵便、電信、電話事業ノ勘定

及資産ハ鐵道ト同シクアル程度ニ於テ獨立セシメサルヘカラス此ノ見解ヨリシテ次ノ結論ヲ生ス

郵便、電信、電話事業ハ鐵道ト同シク報酬ヲ受クルモノナルヲ以テ多少トモ自給自足ノ財政方針ニ據ラサルヘカラス即チ利用者ヨリ受クル料金收入ヲ以テ事業遂行ノ經費ヲ支拂ヒ得ル様料金ヲ定ムヘキナリ

若シ此ノ方針ニ違ヒ更ニ料金ヲ低減センカ收入ヲ以テ支出ヲ蔽ヒ得ス勢ヒ不足部分ハ一般國庫ヨリノ補給ヲ受ケサルヘカラス、其ノ結果ハ一般租税ノ負擔者カ特定個人又ハ商人ノ爲ニスル公共事業ノ費用ヲモ負擔スルコトトナル、之ニ反シ料金高ク從ツテ餘剰ヲ生シ之ヲ以テ一般支出ニ充ツルニ於テハ不當ニ交通ニ課税スルコトトナルヘシ、此ノ兩者ノ缺點ヲ補フ爲鐵道、郵便、電信、電話等此ノ種事業ニ於テハ組織ノ如何ヲ問ハス豫メ財政方針ヲ一定シ事業ノ損益ヲ知悉シ置クヲ最モ重要ナル事トス、尤モ資産竝ニ收益ノ勘定ハ事業カ獨立ノ經營トナルニ非スンハ近代ノ科學ニヨリテモ正確ニハナシ難シ、國家交通事業ノ行政組織如何ハ便宜ノ問題ナルヲ以テ或ハ鐵道ノ如キ組織トナシ或ハ郵便、電信、電話事業ノ如キ組織トナシ又ハ他ニ特別組織ヲナス等何レノ形式ニヨルモ差支ナシ、獨リ會計ノ問題ニ到リテハ交通事業ノ目的、性質ノ兩者ニ適切ナル計算方法ハ一アルノミ、即チ財成の獨立經營トシテ損益ノ計算ヲ明ニシ以テ其ノ間ニ權衡ヲ得セシムルニアリ

正確ナル語ヲ以テスレハ之ハ財政自治ト同義ナラス何トナレハ豫算ノ協賛、支出ノ制限及決算ノ承認ハ一般行政ニ於ケルト同シキ國家機關ノ權限ニ屬スレハナリ



## 五 獨立經營への進展

郵便、電信、電話事業ヲ合理的ニ經營スルカ爲ニハ其ノ財政ヲ國ノ一般財政ヨリ分離スルノ外ナシトノ議論ハ漸ク最近ニ至リテ認めラレタル所ニシテ今日ト雖尙未タ一般的ニ承認セララルルニ至ラス、諸外國ニ於テモコノ理論ヲ承認スル國ハ數アレトモ未タ充分ニ實行セラルルニ至ラス郵便、電信、電話事業ヲ特別會計トセル國ハ佛、獨等數國アルノミ、即チ佛國ニ於テハ一九二三年六月三十日ノ財政法ニヨリ獨逸ニ於テハ一九二四年三月十八日ノ郵便財政法ニヨリ之ヲ實行セリ、兩國ニ於テ此ノ改革實現ニ際シテハ國全體ノ財政組織モ少カラス改正セラレタリ

瑞西ニ於テハ最初ハ聯邦憲法ニヨリ聯邦各邦ハ郵便事業ノ利益ヲ分割享受セリ、此ハ早晚改正サルヘキ制度ニシテ事實聯邦郵便ハ其ノ當初ヨリ今日ノ會計自治ノ確立ニ努力セリ、然レトモ聯邦歲計ノ總額ヲ明知セシムルノ目的ヲ以テ郵便事業ノ收入額及支出額ハ國家歲計ノ歲出、歲入中ニ包含セラレタリ其ノ結果所謂郵便事業ノ純益ハ數十年間一定シテ何等増加ヲ來ササリキ、此ノ問題ニ光明ヲ與ヘタル功勞者ハ少クモ瑞西國ノ關係スル限り國民會議議員スパイサー氏ナリ彼ハ一九〇九年郵便法論議中次ノ動議ヲ提出シタリ

第六十二條ノ二 郵便會計ハ一般會計ヨリ分離ス、郵便事業ノ資本ハ一九〇八年ノ歲計ニ基キテ確定シ之ヲ國有資本ノ一部ト爲シ郵便事業ハ之ニ利子ヲ支拂フ、國庫ハ事業維持ニ必要ナル資金ヲ補給ス此ノ資金ニ對シテモ聯邦參議院ノ決定スル利率ニヨル利子ヲ支拂フヘシ

第六十二條ノ三 事業經營、建物維持費、需品費、資本及借入金利子、建物業具減價銷却費ニ超過スル收入ハ國庫ニ繰入ル減價銷却費ハ聯邦參議院ニ於テ決定ス此ノ決定額ハ之ヲ國庫ニ繰入レ且其ノ限度ニ創設資本額ヲ減額ス

此ノ動議ハ事實否決セラレタリ其ノ理由トスル所ハ聯邦ノ會計組織カ尙完全ニ改善セラレサル時ニ當リ郵便會計ヲ法律上分離スルハ望マシカラストイフニアリ、併シ乍ラ其ノ動議中ニ含マルル見解カ一般的承認ヲ得タルモノナルコトハ國民會議議長ノ次ノ言ニ徴スルヲ得ヘシ

「議會ハスパイサー氏ノ動議カ主義ニ於テ正當ナルコトヲ充分ニ承認ス今日ノ會計制度ハ總テノ點ニ於テ決シテ完全ナルモノニ非ス財政委員會ニ於テ屢々非難セラレタル所ニシテ改良ハ勿論必要ナリ、郵便事業ノ收支ヲ明ニシ收支相均衡セシムルカ爲ニ郵便事業會計ハ分離セラレサルヘカラス」ト佛語新聞ハ更ニ附言シテ郵便法中ニハ會計ニ關スル何等ノ規定モ存在セサレトモ聯邦參事院及聯邦議會ハ何時タリトモ適當ナル決定ヲ爲シ得ヘシト言ヘリ

爾來此ノ思想ハ發展セリ然レトモ一九二二年ニ至ツテ漸ク郵便、電信事業ハ以後其ノ損益勘定ノ結果ノミヲ聯邦ノ一般會計ニ顯ハスコトナレリ此ノ時ヨリシテ郵便、電信事業ノ會計ハ聯邦ノ一般會計ニ對シ獨立ノ地位ヲ與ヘラレ特種ノ必要ニ從ツテ内容ヲ詳細ニ分チ得ル事トナレリ

以來制度ノ改良ハ年々努力サレタリ最近ノ重要改正ハ一九二六年ニ行ハレ此ノ年以後國ニヨリ郵便、電



信、電話事業ノ爲購入又ハ建築サレタル建物ハ之等事業ノ貸借對照表中ニ資本トシテ顯ハサルコトナレリ

## 六 簿記方法

以上ノ如ク郵便、電信、電話事業ノ會計ハ之ヲ國家ノ一般會計ヨリ分離シタルカ次ニ起ル問題ハ如何ナル簿記方法ヲ採用スヘキカニ在リコノ點ニ關シ理論、實際共ニ意見甚タ區々タリ、議論ハ議論ヲ生ミ今ニ一定セサルハ財政簿記制度ニシテ充分ナリヤ商業簿記制度カ勝レリヤノ點ニ在リ然レトモ定期的損益計算表及貸借對照表作成ノ必要アリトスル限リ單一ナル方法ヲ以テ而モ此ノ兩目的ニ使用シ得ルモノナルコトヲ必要トシ而シテ之カ爲ニハ單ニ計算上便宜ナルノミナラス常ニ財政狀態ヲ明確ナラシメ且何時ニテモ簡單ニ系統的ニ締切ヲナシ得ル方法ニ依ルコトヲ適當トス此ノ見地ヨリスルトキハ損益計算表及貸借對照表作成上一般商業ト公企業トノ間ニ區別アルヘカラサルハ明瞭ナリ公企業ノ純益ヲ確定セス唯其ノ收支ノバランズヲ得ルヲ以テ満足スルニ於テハ格別、然ラサル限リ公企業ノ純益ト一般商業ノ純益トヲ異別ニ觀念スルハ到底不可能ナリ若シ眞ノ純益ヲ知ラント欲スレハ必スヤ商業界ニ於テ最モ適切、實用的ナル事カ證明セラレタル方法ニ依ルノ外理論的且確實ナル方法ヲ發見シ難カルヘシ、今日ニ於テハ郵便、電信、電話事業ノ會計ヲ此ノ方法ニ依リテナスモノ僅カニ二國ニ過キス而モ何レモ同一ノ方法ニ依ルモノナルヲ以テ他國ノ例ヲ以テ之カ財政的效果如何ヲ比較スルハ殆ント不可能ナリ多クノ國ニ於テ

ハ唯單ニ收支ノバランズヲ示セルニ止マルヲ以テ其ノ事務ニ從事スルモノノ外之ニ何ヲ加減スヘキカヲ知ルヲ得サルナリ

## 七 商業簿記制度ヘノ進展

瑞西ニ於テハ郵便事業ニ於テ一九一〇年、電信事業ニ於テ一九一六年財政簿記制度ヲ廢シテ商業簿記制度ヲ採用セリ、此ノ時ヨリ兩者ノ會計ハ總體的計算ヲ示スモノト不動産ノミニ關スルモノトニ分レタリ、郵便局ニ於テハ單ニ單式記帳法ニヨル簿記及貸借對照表ヲ作成シ之ニヨリ中央ニ於テ複式記帳法ニヨル簿記ヲ爲ス、此ノ方法ハ一九二三年バーゼルナル瑞西信託會社ニ於テ實驗ノ上是認セラレタリ

一九二三年以來郵便電信事業ノ簿記法ハ大體鐵道ト同様ニナレリ即チ總體的計算ヲナスモノニ二個ノ勘定ヲ設ク事業勘定(working account)及損益勘定(profit and loss account)之ナリ事業勘定中ニハ人件費、物件費竝ニ事業收入ヲ含ム剩餘ハ損益勘定ニ繰入レ其ノ借リ方ニ表シ以テ資本ノ費用即チ資本利子支拂竝ニ減價銷却ニ充ツルナリ

純益ハ損益勘定ノ最終計算(final balance)ニ於テノミ知リ得、事業勘定ノバランズト混同スヘカラス

## 八 減價

商業的計算ノ特色ノ一ハ損益計算ニ際シ(in the final balance)減價ヲナスコトニアリ損益勘定ニ於テ眞實純益ト稱シ得ヘキ額即チ資本ノ増加ヲ知ラント欲スレハ必スヤ建物、器具ノ減價銷却ヲナササルヘカラス



純粹ナル財政的方法 (financial system) ニ依ルトキハ事業費、創設費共ニ事業收入ヲ以テ蔽ハサルヘカラス故ニ最初ヨリ資本ノ銷却ヲ爲スコトト爲ル、然レトモカ、ル不完全ナル方法ハ事業收入カ事業費及創設費ヲ蔽フニ足ラサル場合ニハ之ニ依ルコトヲ得ス

茲ニ於テ必然的ニ妥當ナル商業的方法 (commercial system) ヲ採用スル事トナルヘシ、此ノ方法ニヨルトキハ損益勘定ハ事業ノ存續期間ニ比例シ長期ノ會計期間創設費ノ一部分宛ヲノミ借リ方ニ表スコトトナル、郵便、電信、電話行政ニ於テハ之ヲ減價銷却基金中ニ積立ツ、減價銷却基金ハ貸借對照表中之ヲ負債トシテ表シ資本ノ減價ニ充テ資産タル資本ニハ常ニ原價ヲ記入スルナリ減價スルハ唯設備ノ一部分カ磨滅ノ爲取除ヲ要スルカ又ハ技術的使用ニ堪ヘサルニ至ルヘキ場合ニ限ル此ノ場合此ノ部分ニ對スル帳簿上ノ價格カ減價銷却基金ニ繰入レラレ以テ減價ヲ一度ニ完全ニナシ得シムルナリ、此ノ基金ノ目的ヨリシテ基金ハ必スシモ現實ニ投資スルヲ要セサル事明ナルヘシ、何トナレハ取り替フヘキ品ノ購入費ニ充ツルニ非ス既ニ使用シ得サル物ノ減價銷却ニ充ツルモノナレハナリ、此ノ目的ハ單ニ記帳ノミニテ達シ得

現在郵便事業ハ財産目錄上建物ヲ除イテ資産一、九〇〇萬フラン減價銷却基金一、二〇〇萬フラン(資本ノ六三パーセント)ヲ有ス

鐵道ニ於ケル改良基金 (renovation fund) ハ單ニ上部建築、車輛及備品ノ爲ニノミ使用シ得、其ノ他ノ物ノ磨滅ノ爲減價ヲ繰入ルルハ其ノ物カ財産目錄ヨリ削除サルル場合ニ限ル郵便、電信ニ於テハ事情異レリ、即チ土地ヲ除ク總テノ財産ハ建物ヨリ器具ニ至ル迄年限ヲ限り使用シ得ルモノ皆改良基金中ニ包含セララルナリ

### 九 財政的要求

郵便行政ニ於テハ事業經營上必要ナル設備器具ヲ購入スル爲若干ノ資本ヲ要ス、コノ資本ハ國庫ヨリ借入レ國庫ハ公債借入金ニ依ルナリ而シテ國庫カ借入金ノ利子ヲ支拂フト同様郵便事業モ國庫ニ借入金ノ利子ヲ支拂ハサルヘカラス、其ノ額ハ大藏省ノ支拂フ利子及借入ノ爲要セシ媒介手数料ヲ蔽フヘキ程度ノモノタルヲ要ス、現在ニ於テ利率ハ五分五厘ナリ此ノ利子モ純益ヲ計算スル損益勘定ニ於テ借リ方ニ記入ヲ要ス

減價銷却基金カ火災保險、災害保險、準備金ト同様帳簿上ノ記入ノミニテ目的ヲ達シ得ル事ハ又郵便事業カ減價銷却基金ヲ以テ自由ニ財産目錄ニ記入スヘキ物ヲ購入スル事ヲ可能ナラシム、其ノ結果一九二五年ノ終ニ於テ郵便事業ハ其ノ創設費一、九〇〇萬フラン中何物ヲモ政府ニ對シ負ハサリキ事實新規購入費ハ全部既述ノ諸基金中ヨリ支出サレタリ、又郵便事業ハ之等基金ノ援ケニヨリ資本的要求ノ一部ヲモ充シ新ニ負債ヲ負フノ必要ナカリキ

郵便小切手用資金ハ一部タリトモ永久的建設費調達ノ爲使用サレシ容易ニ小切手ニ換ヘ得ル様銀行ニ對スル短期貸、大藏省トノ交互計算ノ爲等ニ手形トシテ使用サル、此ノ郵便小切手資金ヨリ引出サル金額ノ



大ナルハ一九二五年一月五日現在ニ於テ計算所有者ノ貸一七、二〇〇萬フランナリシカ翌月二十八日迄ニ六〇〇萬フラン引出サレタル事實ニテ明カナラン、即チ此ノ額ハ僅カニケ月以内ニ換價スルヲ要セシナリ、之ヲ大藏省トノ交互計算ニ充ツル資本中ヨリ調達セリ過去ニ於テ一日間ニ最モ大ク受入ヲ超過シテ現金ノ拂出ヲナセシハ一九二五年ノ七五〇萬フランナリ本年度(一九二六年)ニ於テハ更ニ此ノ額ヲ超過シテ一日八二〇萬フランヲ拂出セリ

郵便小切手用資金ノ貸方、借方ノ利子ハ事業ノ重要ナル要素ニシテ事業勘定ノ收入及支出ト認メラルルヲ以テ損益勘定ノ利益ニ記入セス一般事業勘定ニ計上サレルナリ

一〇 郵便、電信、電話事業カ聯邦收入ノ源泉タルコト

損益勘定完結ノ曉ニ起ル重要ナル問題ハ利益ヲ如何ニ處分スヘキカ或ハ損失ヲ如何ニ補填スヘキカノ問題ナリ此ノ問題ノ解決ハ聯邦鐵道ノ場合ト其ノ趣ヲ異ニス

鐵道ニ於テハアル會計年度ニ純益アル時其ノ純益ハ總テ聯邦鐵道ノ財産トナリ、一部ハ借入金ノ返還ニ使用セラレ一部ハ豫備金中ニ繰入レラルナリ、若シ繼續五ケ年ノ豫備金繰入カ一定金額ヲ超過スル場合ハ運賃ヲ引下ケサルヘカラス鐵道ハ何等利益ヲ國ニ配當セス其ノ代リ如何ナル事業ノ損失アルモ鐵道自身之ヲ負擔セサルヘカラス所詮其ノ損失ハ豫備金又ハ將來ノ純益ヲ以テ補填サルヘキナリ之ニ反シ通信事業ハ憲法ノ條章ニヨリ聯邦一般會計ノ財源タリ

○註 瑞西聯邦憲法

第四二條 聯邦ノ經費ハ左ノモノヲ以テ之ヲ支辨ス

- イ、聯邦有ノ財産ヨリ生スル收入
- ロ、瑞西國境ニ於テ徵收スル聯邦關稅ノ收入
- ハ、郵便及電信ノ收入
- ニ、火藥專賣ノ收入
- ホ、各州ニ於テ徵收スル兵役免除稅ノ總收入中ノ半額
- ヘ、各州ノ分擔金、此ノ分擔金ハ特ニ各州ノ富力及課稅シ得ヘキ資源ニ應シテ聯邦ノ立法ヲ以テ之ヲ定ム

故ニ其ノ收入ハ一般會計ノ支出ニモ充當セラル即チ通信事業ハ純益アル時之ヲ國庫ニ繰入レサルヘカラス反之若シ損失ヲ被ラハ國庫ニ於テ其ノ損失額ヲ補填ス

然レトモ斯カル從屬的關係アル故ヲ以テ通信事業ハ單ナル財政制度タルニ止リ何等特別ニ交通企業トシテ存立スルモノニ非スト推斷スヘカラス其ノ直接ノ目的ハ高級文明國ニ於テノミ期待シ要求シ得ルカ如キ事業ヲ經營シテ國家經濟狀態ノ向上ニ貢獻スルニ在リ、サレハ國庫カ通信事業ニ要求スル金額ニモ自ラ制限アリ此ノ當然起ルヘキ制限ハ憲法中ニモ明示セラルル所ニシテ憲法第三十六條第二項及第三項ニヨレハ通



信事業ノ純益ハ國庫ニ歸スルモノナレト事業ハ敢テ收入ノ多キヲ期セス可及的料金ノ低廉ヲ計ルヘキモノトス

○註 瑞西聯邦憲法

第三六條 瑞西全土ノ郵便及電信ハ聯邦之ヲ管理ス、郵便及電信ノ益金ハ聯邦ノ收入トス

郵便及電信ノ料金ハ瑞西全土ニ對シテ同一ノ原則ニ從ヒ且能フ限リ公平ニ之ヲ定ム

信書及電信ノ秘密ノ不可侵ハ之ヲ保障ス

結果ニ於テハ法律的ニ規定セラレタル鐵道ノ場合ト何等異ラス即チ純益ハ一定限度ヲ超過スヘカラス若シ此ノ限度ヲ超ヘテ連年純益アレハ料金ノ引下ケヲ行フカ事業ノ改良ヲ計ルモノトス

如何ナル状態ノ下ニ於テモ收入ト支出トノ均衡ヲ得セシムルハ最モ宜シキ財政ノ實行トス然レトモ我等若シ通信事業收入ノ増減カ一般經濟界ノ變動ニ原因シテ收入激減ノ場合ニモ經費ヲ節約シ得サル事情ヲ知ルニ於テハ假令好景氣ノ年ニ純益ヲ上ケサルモ不景氣ノ年ノ損失ハ免ルヘカラサル所以ヲ知ルヘシ茲ニ於テカ好景氣ノ年ノ純益ハ原則トシテ不景氣ノ年ノ損失ヲ補填シテ不足ナキ豫備費ヲ積立テ得ル程度ノモノタルヲ要ス收入ノ増減ハ略切手賣上高ニヨリ推知シ得、即チ一パーセントノ切手賣上減アレハ一年百萬フラン以上ノ收入減アリ例ヘハ一九二二年ノ如キ實行ニテハ一、〇五〇萬フランノ收入減アルナリ

經營宜シク經濟界ノ好況時ニ在リテハ一定限度ニ於テ純益ヲ舉クルヲ以テ正常ノ状態トス此ノ場合ニハ通信事業カ何等國庫ニ收益ヲ舉クルノ目的ヲ以テ經營セラルトノ疑念ヲ懷カシメスシテ事實國庫ニ貢獻スルナリ過去ニ於テ國家ハ通信事業ニ對シ何等過大ノ要求ヲ爲ササリキ大戰前ニ於テ郵便事業カ國庫ニ繰入レタル最高額ハ四五〇萬フラントス今後ト雖永久ニ此ノ額以上ヲ國家カ要求セサル事ヲ事業ノ爲希望シテ止マサルナリ不幸ニシテ大戰ハ郵便事業ヲ缺損ニ導キテ一九一四年ヨリ一九二二年ニ至ル連續九年ノ長キニ亘リ缺損ヲ生セシメタリ其ノ總額實ニ一億七百萬フラントス此ノ缺損額ハ國庫ニ於テ之ヲ補填セリ然モ國庫カ郵便事業ヨリ受入レタル金額ハ一八七五年ヨリ一九二五年迄ノ五十二年間僅九千二百萬フランノミ

一一 純益中ヨリ準備金若干ヲ引去ルヘキコト

他ノ重要ナル問題ハ純益中幾何ヲ兩事業(郵便及電信電話)ノ財政ノ基礎ヲ強固ニスル爲ニ控除シ又其ノ殘額ノ幾何ヲ國庫ニ繰入ルヘキカノ問題ナリ聯邦鐵道ニ於テハ純益アレハ全部之ヲ自身保有ス通信事業ニ於テハ純益中一部ヲ準備金トシテ殘シ置クヘキヤ否ヤノ問題アルノミ

コノ準備金設置ノ利益ハ通信事業カ自己ノ財産ヲ所有シテ負債ヲ支拂ヒ得ル事ニアリ其ノ結果ハ負債ノ利子減少シテ將來更ニ多クノ利益ヲ舉ケ得ルニ至ル、以テ料金ノ値下ヲ行フヘク或ハ事業ノ改良ヲ計リ得ヘシ之ニヨツテ是ヲ觀レハ純益中幾分カヲ準備金トシテ積立ツヘキ事ハ憲法條章ノ期待スル最低通信料金ノ主義ニ合致スルモノト云フヘシ若シ此ノ問題ニ關シ何等カノ疑問存ストスレハ夫レハ主義ニ關シテニ非ス



金額如何ニ關シテナリ

此ノ準備金設置ノ問題ハ一九二四年ノ郵便、電信行政ニ於テ積極的ニ解決セラレタリ即チ收入減少シテ缺損ヲ免レ難ク國庫ヨリ補給ヲ受ケサルヘカラス場合ニ備フル爲各事業別ニ相當準備金ヲ設クルコトナレリ郵便事業ノ準備金ハ一九二五年ニ於テ僅ニ二〇〇萬フランノミ然レトモ之ト略同額ノ有價證券ヲ別ニ所有スルコトヲ忘ルヘカラス

通信事業カ純益ノ一部ヲ使用シテ更ニ其ノ資本ヲ銷却スヘキヤ否ヤノ問題ハ未タ生起セス電信事業ハ國ニ對シ二五、一〇〇萬フランヲ負ヒ郵便事業ハ自己ノ使用スル不動産ヲモ勘定ニ入レテ二、二〇〇萬フランヲ負フ資本ノ年賦償還ハ之ヲ減價銷却ト混同スヘカラス後者ハ資産ノ減少ナルヲ以テ必スヤ損益勘定ニ於テ相當額ヲ控除セサルヘカラス之ニ反シ前者ハ資産ノ増加ヲ意味スルモノニシテ純益ノ一種ノ保守的使用ナリ年賦償還ハ特別財産ノ建設ヲ可能ナラシメ、之ハ國家企業ニ於テ株式會社ノ資本ト同様ノ作用ヲ爲スナリ聯邦鐵道ハ此ノ種特別財産四、五〇〇萬フランヲ有シ一ニ「銷却濟資本」ト稱セラル

若シ將來鐵道及通信事業カ全部負債ヲ免レ盡スニ於テハ聯邦ノ交通制度ハ大イニ改善セラルヘシ鐵道ニ於テ追求サルヘキ事項ハ通信ニ於テモ亦追求サルヘキモノトス何トナレハ近隣諸國ニ於テ兩事業共負債ノ大部分ヲ除去シ盡シタレハナリ此ノ問題ノ解決カ料金形成ニ重大關係アル事ハ今更緊説ノ要ナシ吾人ハ唯一例トシテ獨逸通信設備ノ大部分カ一五七、四〇〇萬マークノ特別財産ヨリ成リ之ニ對シテハ利子ヲ支拂フ

ヲ要セサル事ヲ指摘スルニ止メン其ノ結果獨逸通信事業ノ純益ハ總テ其ノ特別財産トナルモノナレト瑞西ニ於テハ純益ハ利益中ヨリ原價資本ニ對スル相當利子ヲ支拂ヒタル殘額ニシテ正ニ超過配當ト稱スヘキモノナリ斯クノ加ク獨逸國通信事業ハ特別財産ニ對シ利子ヲ支拂フヲ要セサルニ加ヘテ一九二三年ヨリ從來ノ八時間勤務ヲ改メテ九時間勤務トナセリ

更ニ瑞西ト比較シテ俸給賃銀ハ低廉ナリ、之等三要素ノ存在ヲ考慮スレハ獨逸國通信事業カ現在瑞西國通信事業カ爲シ得ルヨリモ遙カ低廉ナル料金ニテ事業ヲ經營セル事實モ容易ニ了解シ得ヘシ

## 一二 郵便料金ト生活費ノ増大其ノ他

郵便事業ノ料金ハ事業カ夫レ自身存在シ得ル程度即チ料金收入ヲ以テ事業ノ支出ニ充テ得ル程度ノモノタルヲ要スルヲ以テ料金決定ノ基礎トシテ第一ニ考慮スヘキハ事業費ナリ然レトモ此ノ原則ノミヲ以テシテハ足ラス何トナレハ此ノ原則ヲ適用シ得サル郵便物例ヘハ僅少ナル價格ノ郵便物 (postal articles of little value) 存在スレハナリ、之等ニ對シテハ高キ料金ヲ課シ得ス勢ヒ此ノ範圍ニ於テハ事業ハ損失ヲ被ルナリ此ノ事ハ新聞紙ニ於テ最モ顯著ナリ新聞紙ハ全郵便物數ノ三分ノ一ニ達シ而モ其ノ齎ス收入ハ全收入ノ二十五分ノ一ニ足ラス、其ノ價格小ナルヲ以テ幸ニ甚タ低減サレタル料金ヲ課セラルルモノナレト吾人ハ寧ロ其ノ料金ヲ幾分引上クルカ新聞紙ノ價值向上ニ效果アルモノト思料スルナリ、斯カル郵便物取扱ノ爲被ル損失ハ他ノ高キ料金ヲ課セラルル郵便物ヨリノ利益ヲ以テ補足セサルヘカラス、茲ニ於テカ書狀ハ最モ重キ



負擔ヲ有ス書狀ハ又無料郵便ノ經費ヲモ分擔セサルヘカラス若シ無料郵便ノ制ヲ廢止スレハ州及區ハ又相當料金ヲ支拂ハサルヘカラス故ニ之ヲ免除スル無料郵便ハ結果ニ於テ有料書狀ニ一種ノ間接稅ヲ課スルモノナリ

郵便料金ハ戰前ニ比シ平均八十パーセント引上ケラレタリ即チ一箇年ノ全收入ハ繼越料ヲ除キ同一取扱數ナレハ約八十パーセント増ノ筈ナリ故ニ郵便料金ノ平均増加ハ一般生活費ノ増加六十五パーセントヲ凌駕ス此ノ事ヨリシテ或ル論者ハ郵便料金ハ不當ニ高シト主張ス然レトモ論者ハ郵便料カ事業經費ニ比例シテ整理サルヘキ事ヲ看過セリ、不幸ニシテ經費ハ六十五パーセントニ下ラス依然百十パーセントヲ持續ス換言スレハ今日ノ郵便經費ハ一九一三年ノ俸給及事業費ニ比シ一〇パーセント多クヲ要スルナリ事實斯クノ如クナルヲ以テ財政ノ恢復ヲ招來スル爲八十パーセント丈ノ郵便料値上ニテ濟ミタルナラハ寧ロ成功ト言フヘキナリ

郵便經費激増ノ原因ハ主ニ給料及鐵道運送費ノ増加ナリ物價騰貴ニヨル從事員ノ加俸ハ戰前ニ比シ八十五パーセントナレト事務繁忙等ノ特別原因ヲ考慮スレハ正ニ一一一九パーセントヲ加俸スヘキナリ而モ之ニハ新法ニヨル時間ノ延長ヲ考慮ニ入レス然レトモ吾人ハ從事員ノ事務カ以前ニ比シ遙ニ上等ニナリタル事ヲ認メテモ尙現在ノ加俸ニテハ充分ナリト認メス

戰前聯邦鐵道ニ支拂ハレタル郵便物遞送費ハ或ハ過小ナリシナラン、何トナレハ一走行キロメートル程ニ付三・八サンチームナリシナレハナリ現在ニ於テハ一六・三サンチームトナレルヲ以テ以前ノ四倍ナリ以テ郵便遞送ノ鐵道費用ヲ蔽ヒ得ヘシ茲ニ注意スヘキハ鐵道カ何等郵便車ノ内容ニ立入ラサル事ナリ即チ準備、積込ミ、積下シ配達等ニ皆無關係ナリ更ニ車輛自身ヲモ郵便事業ニ於テ提供シ修繕モ爲ササルヘカラス鐵道側ノナスヘキ範圍ハ貨車ノ牽引及操縱ナリ此ノ報償トシテ郵便事業ハ一九二六年六七〇萬フランヲ支拂ヘリ

### 一三 郵便料値下問題

現狀ノ不安及通信事業獨占ニヨル相當利益ハ聯邦財政カ可成リ不足スルモ尙之ヲ以テ充實スヘカラサルノ見地ヨリスレハ今日郵便料値下ヲ主張スルニハ稍逡巡セサルヲ得ス何トナレハ値下ノ結果ハ必ス收益ノ減少ヲ來セハナリ

アル範圍ノ人々ハ頻ニ料金ノ値下ヲ勸告ス而シテ言フ所料金ヲ値下スレハ郵便利用者ヲ多クシ一時ノ缺損モ廳テ恢復シテ將來必スヨリ多クノ收入ヲ得ルニ至ルトイフニ在リ余ハ曾テ鐵道ニ就テ此ノ問題ヲ研究シ最近又通信ニ就テ之ヲ研究セルモ其ノ結果ヨリ見レハ人ノ豫言ニハ容易ニ信用ヲ置キ難シ先ツ第一ニ事業當初ニ課セシ料金ヲ引下クレハ必ス之ニ伴フ短期ノ收入減アリ例ヘハ書狀ノ料金カ四分ノ一値下ケラレテ事業狀態同シケレハ收入亦四分ノ一丈ケ減スル筈ナリ而シテ値下以前ト同額ノ收入ヲ得ルニハ三分ノ一ノ物數増加ヲ必要トスルナリ



而モ此ノ場合ハ事務三分ノ一丈ケ繁雜トナルヲ以テ又此ノ爲メ相當費用ヲ多ク要シ收入總額ハ前同様ナルモ尙純益ハ小ナルヘキナリ運輸企業ニ於テ料金ヲ値下ケテ財政狀態良好トナリタル例ハ殆ント見出シ難シ又料金値下ノ爲交通ノ増加セル例ハ稀ニハ存スルモソハ偶然的ノモノノミ交通ノ繁閑ト一般經濟界ノ景氣不景氣トノ關係ヲ研究スル者ハ交通ノ繁閑カ交通政策ニ左右セラルル事極メテ少キヲ知ルヘシ一九〇五年ヨリ一九一三年迄ノ間ニ於テ瑞西内國郵便書狀ハ五十パーセント増加セリ然レトモカカル結果ヲ得ル爲何等郵便料ノ値下ノ行ハレタルニ非ス又一九二〇年ヨリ一九二二年迄ニ物數ハ一四パーセント減少シタリ之ハ一九二一年一月一日ノ郵便料値上ニヨル觀アレト實ハ然ラス減少ノ原因ハ主トシテ不幸ナル當時ノ經濟界ノ不景氣ナリ、トマレ此ノ時以後ハ何等郵便料ノ値下ヲ行ハサルモ事業ハ着々繁榮ニ向ヒツツアリ之ヲ要スルニ他ニ特別ノ原因存在セサレハ交通企業ハ料金ノ値下ヲ行フモソレカ經濟界好況ノ時ナレハソレニ伴フ困難ニモ容易ニ打勝チ得ト言フヘキナリ、不幸ニシテ吾人ハ現在斯カル好條件ニ居ラス

#### 一四 郵便事業財政ト電信(電話ヲ含ム以下同シ)事業財政トノ差異

若シ吾人カ郵便事業ノ財政ト電信事業ノ財政トヲ比較スルニ於テハ其ノ構成ニ甚シク差異アルヲ發見スヘシ

郵便事業財政ノ特色ハ比較的小額ノ建設資本ニテ足り甚タ多クノ職員ヲ必要トスル事ナリ郵便事業カ一年ニ使用スル建物備品費ハ一〇〇萬フラン乃至四〇〇萬フランナリ建物費ハ主トシテ郵便局建設費ナリ其

ノ原價ハ四、〇〇〇萬フランナリキ之ニ加フルニ鐵道郵便車、自動車其ノ他ノ車輛、局備品アリテ其ノ原價一、九〇〇萬フランナリ之ヲ以テ全資本トス郵便事業ハ其ノ性質上廣キ範圍ニ亘ル器械ノ使用ヲ許サス、吾人ハ將ニ傳送器ヲ局内事務ニ使用セントスルモノナレト之トテ局外ニ於テスル事務ニハ殆ント使用シ得ス、試ミニ五千四百ノ集配人カ毎日人ノ住居スル地ニ一度、二度或ハ三度ノ配達ニ行ク事ヲ考ヘ見ヨ瑞西ノ配達事務ハ世界中稀ニ見ル稠密ナルモノナリ集配人平均一日ノ仕事ノ量ヲ見ルニ一人七二〇戸ヲ行キ七・六平方キロメートルノ範圍ヲ配達スルナリ實ニ人件費ノ三〇パーセント全通信事業費ノ二二パーセントハ配達事務ノ爲使用サルルナリ之ニヨツテ之ヲ觀レハ收入ノ大部分ハ配達事務ノ爲使用シ而シテ單ニ一部ヲ資本利子支拂或ハ減價ニ充ツルノ妥當ナルヲ知ルヘシ收入ニ對スル經費ノ百分比即チ事業係數(working coefficient)ハ最近九〇パーセントナルモ將來ハ更ニ上昇スヘシ何トナレハ事業ヲ改善スルモ之ニ對應スル收入額ハ存在セサレハナリ人件費其ノ他ノ經費ハ一一、五〇〇萬フランニ達シ此ノ中人件費ハ八、九〇〇萬フランニシテ即チ七七パーセントニ當ル利子及資本銷却費ハ合セテ僅カ三〇〇萬フランノミ

電信事業ノ財政ト郵便事業ノ財政トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニス  
電信事業ハ從來比較的多クノ建設資本ヲ必要トセリ此ノ事ハ時代ノ推移ト共ニ機械力ノ應用サルル範圍擴大スルニツレ更ニ顯著トナレリ試ミニ最近ノ高速電機及自働交換電話機ノ能率ヲ考ヘ見ヨ舊式モールス機ニテハオペレーター(operator)ハ平均一分間十二字ヲ送信シ得ルノミ然ルニ最近ノシーメンズ、ラ



ピツド、トランスミッターニテハ一分間約百字ヲ送信シ得、一萬ノ電話加入者ヲ有スル電話局ハ手働式ニテハ七十三名ノ従事員ヲ必要トスルモ、自働式ニテハ十三名ヲ以テ足ル、毎年電信事業ニ投資サルル資本ノ額ハ二千萬フラン乃至五千萬フランニシテ實ニ郵政事業ト比較シ約十倍ナリ電信事業ノ不動産價格ハ八百萬フランヲ超過セス然レトモ此ノ外ニ原價三億六千五百萬フランニ達スル電信線、機械及器具ノ存在スル事ヲ忘ルヘカラス此ノ兩者ヲ合セテ投下資本ヲ比較スレハ電信ハ郵便ニ比シ約六倍ナリ反之電信事業ノ人件費ハ甚タ尠ク一年僅二千六百萬フランノミ即チ郵便ノ約三分ノ一ナリ經營費ノ大ナラサルハ此ノ理由ニヨル一方又此ノ經營費ハ必ス大ナラサルヲ要ス何トナレハ資本利子支拂及減價償却基金繰入ニ略同額(二千六百萬フラン)ヲ必要トスレハナリ即チ事業係數 (coefficient of the working expenses) ハ必然的ニ郵便ヨリモ小ナリ一九二五年ニ於テ電信事業ノ事業係數ハ五二パーセントナリキ而シテ機械ノ改良絶エス行ハルル結果人件費ハ更ニ減少シテ將來事業係數モ一層低減スル傾向ニ在リ

以上余ハ郵便事業ノ經濟組織ト電信事業ノ經濟組織トノ間ニ如何ナル差異アルカヲ説述シタルカ此ノ差異ハ料金決定ニ於テ、行政ニ於テ又財政ニ於テ常ニ留意スルヲ要スルモノトス、此ノ差異ヲ重要視シ更ニ其ノ自然的發展ヲ期スルカ爲ニハ兩事業ノ勘定ヲ全然分離シ二個ノ別異ナル計算ヲ立ツルヲ以テ最モ適切ナル方法トス、瑞西ニ於テハ古クヨリ兩事業ノ行政ヲ異ニセルヲ以テ財政ノ分離モ亦常ニ存在セリ然レトモ吾人ハ郵便事業ト電信事業カ假令同一官廳ニ於テ行政セラルルトモ少クモ勘定ハ各別個ニ存在セシメ

サルヘカラサルモノナリト思料ス

#### 一五 業務別計算ノ必要

事業カ嚴格ニ商業上ノ原則ニヨリ經營セラルトイハンカ爲ニハ事業カ全體トシテ事務的ニ經營セラルルノミニテハ足ラス、事業ヲ構成スル各部門タル業務カ又事務的ニ經營セラルルモノナラサルヘカラス何トナレハ事業ノ計算及貸借對照表ハ各部門ヲ綜合シテ作成セラルルモノナレハナリ此ノ事業ノ各業務別計算ヲ爲スコトカ果シテ價值アルモノナリヤ否ヤハ屢々問題トナレリ國家事業ノ經營ハ第一ニ經濟學 (political-economy) ノ原則ニ從フヘキモノニシテ商人ノ如ク營利ニノミ着眼シテ經營スヘキニ非ス、即チ收支相償ハサル設備事務ト雖濫リニ廢止スヘキモノニ非ストハ屢々論セラルル所ナリ然レトモ事業ノ不生産的方面ヨリ生スル損失ハ生産的方面ヨリ得ル收益ヲ以テ補填セサルヘカラス茲ニ於テ第一ニ重要ナル問題ハ如何ナル範圍マテ此ノ填補ヲ必要トスルヤ又如何ナル範圍マテノ填補ハ可能ナリヤノ問題ナリ次ニ若シ填補不能ナラハ斯クテモ尙犠牲ヲ拂ヒツツ業務ヲ遂行スルノ公益上ノ必要アリヤ否ヤヲ考究スルヲ要スルナリ然シテ若シ利益カ犠牲ニ比シ甚タシク小ナルモノナラハ事業カ即チ贅澤ナルナリ如斯事業ハ必要ニ非ス有害ナルモノニシテ國家事業トシテモ尙存在ノ價值ナキモノナリ

斯カル事業ノ業務別計算ハ事業ノ成、不成ノ原因ヲ明白ナラシメ、改良ヲ促進シ、行政ノ經濟的精神ヲ涵養セシムル等事業ヲ事業トシテノ完全ノ存在ニ到ラシムルニ重要ナル原因ノ一ナリ



一六 業務別計算

事業ノ各業務別生産力ヲ最モ正確ニ知ルノ道ハ商業的計算及貸借對照表ヲ作成スルニ在リ此ノ方法ハ事情ノ許ス限リ遵守セサルヘカラス然レトモ到底之ニ遵ヒ難キ場合ニハ他ノ方法ニヨリ眞實ヲ擱マサルヘカラス

若シ旅客、書狀、小包、爲替、集金、小切手ノ各業務別損益計算カ可能ナラハソハ郵便事業ノ爲大ナル利益ナルヘシ然レトモ之ヲ實行セントスルニ於テハ書狀、小包、爲替、集金業務ニ就キ大ナル困難ヲ感スヘシ何トナレハ此等業務ノ收入ハ切手ノ賣上ニヨリ計算サルルモノナレト賣上總額中幾何カ何レノ業務ノ爲ニ使用サレタルカハ假令統計的ニ或程度迄ハ知り得ルモ到底正確ニハ知り難ケレハナリ調査ノ結果一九二五年ノ切手賣上總額一億八百萬フラン中六六パーセントハ通常郵便物ノ爲ニ三〇パーセントハ小包ノ爲ニ残り四パーセントハ小切手、代金引換及集金郵便ノ爲ニ使用サレタルコト明トナレリ然レトモ之等總テニ共通ナル局所費、遞送費、配達費ハ遂ニ正確ニ分チ得ス僅ニ勝手氣儘ナ不確定ナル數字ヲ得タルノミ旅客運送業務ノ損益計算ハ他ノ郵便業務ニ於ケルヨリモ比較的完全ニ行ヒ得此ノ故ヲ以テ旅客運送業務ニ對シテハ一九二一年以來獨立ノ損益計算ヲ爲シ又線路別(數線ヲ合セテ一團トシ)計算ヲモ爲セリ此ノ獨立計算ノ結果過去四年間ニ於テ業務ハ尠カラス改良セラレタルカ尙更ニ改良ヲ必要トスル點多クアル事ヲ發見セリ郵便小切手業務ニ在リテハ收入ハ帳簿ニヨリ正確ニ計算シ得ヘシ然モ經費ノ點ニ於テハ書狀小包、爲

替ト同シク計算ニ多大ノ困難ヲ感スルナリ

一七 局所別計算

各局所別計算モ亦アル重要サヲ有スルナリ例ヘハ電話事業ニ於ケル地方電話局ノ計算ノ如キ然リ此ノ點ニ關シテハ郵便事業ト電信事業トノ間ニ著シキ差異アリ電話事業ニ在リテハ一局ノ收益ハ容易ニ知悉シ得、經驗上ヨリ見ルニ市外交換事務ニ於ケル經費ト收入ハ略相均衡ス即チ他局ヨリ自局ヘノ通話ニ依ル經費ハ自局ヨリ他局ヘノ通話ノ收入ヲ以テ略補ヒ得ルナリ反之郵便事業ニ在リテハ發送到着ノ物數ハ局所毎ニ著シク相異ス例ヘハ印刷物、新聞紙ハ大部分アル場所特ニ大都會ヨリ流出ス而シテ地方ノ郵便局ハ主トシテ到着局ニシテ經費ヲ要スル配達ノ事務ヲ負擔セサルヘカラス、小包代金引換、集金ノ業務ニ就テモ同一現象ヲ見ルヘシ故ニ局所ノ收入ヲ見ルニ際シテハ一局所ノナス事務ノ總體ハ其ノ局所ノ收入ヲ以テ直接表示サルルモノニ非サルコトニ留意セサルヘカラス計算ヲ正確ニスル爲ニハ發送局ハ到着局ニ其ノ收入ノ割前ヲ與ヘサルヘカラス以上ノ如キ事ハ都市ノ郵便局ト地方ノ郵便局トノ收支ヲ比較スルニ就テモ看過スヘカラサル事項ナリトス

一八 豫想

結論トシテ余ハ簡單ニ將來ノ豫想ヲ述フヘシ

通信事業ノ發達ハ現在ニ在リテハ再ヒ正常ノ程度ニ復セリ若シ今後モ引續キ規則正シク發達シ且物價ノ下



落ニ比例シテ從事員ニ給與スル慰勞手當モ幾分減額スルニ於テハ近キ將來必スマ通信料金ノ低減モ實行シ得ヘシ

然レトモ通信事業ノ將來ヲ考フル時又危惧ノ念ナキ能ハス「産ヲ爲スハ易ク産ヲ守ルハ難シ」トハ人ノ能ク言フ所ナリ然リ事業ノ財政的危機ヲ切抜クルハ事業ノ繁榮ヲ維持スルヨリモ容易ナルモノノ如シレチツク鐵道會社支配人ベネル氏曰ク「鐵道ハ不良ナル時ニ於テノミ良好ナリ」ト之ハ心理學的ニノミ説明シ得ルパラドクス(Paradox)ナリ事業ノ難局ニ當リテハ非利己心ト犠性的精神ト相俟ツテ財政ノ危機ヲモヨク救フモノナレト一旦事業順調ニ至レハ忽チ利己心ト貪慾トカ擡頭シテ臆テ再ヒ危機ヲ招來スルナリ

(以上)

### 英國通信事業財政ト其ノ商業的計算



英國會計事業概論及其商業關係

目次

第一 英國財務ニ於ケル根本原則……………五七九頁

一、根本原則……………五七九頁

二、財政監督……………五七九頁

三、合同資金制……………五八一頁

第二 通信事業財政……………五八二頁

一、通信事業ノ會計上ノ地位……………五八二頁

二、通信收入……………五八三頁

第三 商業的計算……………五八四頁

一、議會ト通信會計……………五八五頁

二、計算方法……………五八六頁

三、結 論……………五九四頁



一、	概算書	五八四頁
二、	預算書	五八六頁
三、	決算書	五八八頁
四、	國家の會計	五九〇頁
五、	國家の預算	五九二頁
六、	國家の決算	五九四頁
七、	國家の會計と預算との關係	五九六頁
八、	國家の會計と決算との關係	五九八頁
九、	國家の會計と國家の關係	六〇〇頁
十、	國家の會計と國家の責任	六〇二頁
十一、	國家の會計と國家の監督	六〇四頁
十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係	六〇六頁
十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六〇八頁
十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六一〇頁
十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六一二頁
十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六一四頁
十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六一六頁
十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六一八頁
十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六二〇頁
二十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六二二頁
二十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六二四頁
二十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六二六頁
二十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六二八頁
二十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六三〇頁
二十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六三二頁
二十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六三四頁
二十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六三六頁
二十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六三八頁
二十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六四〇頁
三十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六四二頁
三十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六四四頁
三十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六四六頁
三十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六四八頁
三十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六五〇頁
三十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六五二頁
三十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六五四頁
三十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六五六頁
三十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六五八頁
三十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六六〇頁
四十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六六二頁
四十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六六四頁
四十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六六六頁
四十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六六八頁
四十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六七〇頁
四十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六七二頁
四十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六七四頁
四十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六七六頁
四十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六七八頁
四十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六八〇頁
五十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六八二頁
五十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六八四頁
五十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六八六頁
五十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六八八頁
五十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六九〇頁
五十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六九二頁
五十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六九四頁
五十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六九六頁
五十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	六九八頁
五十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七〇〇頁
六十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七〇二頁
六十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七〇四頁
六十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七〇六頁
六十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七〇八頁
六十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七一〇頁
六十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七一二頁
六十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七一四頁
六十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七一六頁
六十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七一八頁
六十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七二〇頁
七十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七二二頁
七十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七二四頁
七十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七二六頁
七十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七二八頁
七十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七三〇頁
七十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七三二頁
七十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七三四頁
七十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七三六頁
七十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七三八頁
七十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七四〇頁
八十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七四二頁
八十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七四四頁
八十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七四六頁
八十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七四八頁
八十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七五〇頁
八十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七五二頁
八十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七五四頁
八十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七五六頁
八十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七五八頁
八十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七六〇頁
九十、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七六二頁
九十一、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七六四頁
九十二、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七六六頁
九十三、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七六八頁
九十四、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七七〇頁
九十五、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七七二頁
九十六、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七七四頁
九十七、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七七六頁
九十八、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七七八頁
九十九、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七八〇頁
一百、	國家の會計と國家の責任と監督との關係(續)	七八二頁

## 英國通信事業財政ト其ノ商業的計算

### 第一 英國財務ニ於ケル根本原則

#### 一、根本原則

英國財務ノ根本原則ハ

- (1) 國家ノ收入支出ハ議會ノ協賛ヲ經ルコト
- (2) 租稅其ノ他一切ノ國家收入ハ合同資金(Consolidated Fund)ニ編入シ統一セラルルコト
- (3) 凡テノ收入支出ハ一ケ年ヲ基礎トシテ均衡ヲ保タシムルコト

以上ノ三原則ハ英國ノ會計法規ニ通スルモノニシテ各官廳ハ凡テ右ノ三原則ノ支配ヲ受クルモノナリ

#### 二、財政監督

##### (1) 監督

國家ノ收入支出ニ對シテ議會カ監督スルハ立憲國タル以上説明ヲ要セサル所即チ議會ハ收入ヲ計リ支出ヲ爲シ會計ヲ検査シ一般國家ノ經費ハ各官廳ノ要求ニ合致スル如ク議會ニ於テ決定スルモノナリト雖會計検査院(エキステツカー)カ其ノ間ニ在リテ一般官廳ノ會計ノ司法的監督ヲ爲スハ勿論或程度マテ行政的監督ヲ爲スハ各國ト其ノ例ヲ稍々異ニス之レ英國ノ財務組織ノ然ラシムル所ニシ



テエキスチエツカーハ大藏省ヨリ獨立シ後述ノ如ク國庫金ノ收納ヲ司ル結果經費支拂ノ起ル以前ニ豫メ監督ヲ爲スヲ要スルヲ以テナリ此ノ點ニ關シテハ實ニ議會ノ代理者タル性質ヲ有ス即チエキスチエツカーノ職能ハ之ヲ二方面ヨリ觀ルコトヲ得

(イ) 收支ノ管理

國庫ニ收入ノ生シ又ハ國庫ノ支出ヲ仰ク一切ノ收支機關ノ爲其ノ收支ノ權能ヲ附與スルコトヲ司リ凡テノ官廳カ經費ヲ支出スルニ當リ會計検査院長官 (Comptroller and Auditor General) ノ指定交付スル國庫金ノ支出ニ據ラサルヘカラサルト同時ニ收入ノ大部分モ合同資金ノ名ノ下ニ其ノ管理ヲ仰カサルヘカラス

(ロ) 收支ノ監督

各官廳ヲ通シ一切ノ收支ヲ監督ス即チ七分課ヲ置キ各主計官ハ其ノ管轄官廳ノ會計ヲ監視シ之ヲ下院ニ報告ス殊ニ其ノ支出ニ對シテハ事後ノ検査ハ勿論事前ニ於テモ豫算科目ト對比シ使途ニツキ充分ノ監督ヲ爲ス

而シテ大藏省ハ國家歲出入全般ニ亘ル事務ヲ司ルモノニシテ軍事豫算ヲ除キ文事豫算ニ對シ責任ヲ有シ文事費收入官署費(税關、内國稅務所、郵便局)ノ如キハ大藏省ニ於テ作成セラレ各省ノ收支計算ニ對スル検査モ大藏省ノ要求アル場合會計検査官之ヲ爲スモノナリ

(2) 補助支給ノ制度

以上英國ノ財務ハ議會ト會計検査院トニ依リ監督セラルルモノナリト雖此ノ原則ニ付キ補助支給 (Appropriation in Aid) ノ例外制度ノ存スルヲ看逃スヘカラサルナリ此ノ制度ハ各種ノ官廳ニ於テ行政上ノ必要ニヨリ個々ニ收得スル手数料其ノ他ノ收入ハ之ヲ合同資金ニ編入セス直ニ之ヲ收得シタル官廳ニ於テ支出スルヲ妨ケサルモノニシテ此ノ方法ニ依ル支辨ハ議會ノ監督ヲ要セサル慣習カ認メラレ從ツテ其ノ結果各官廳ノ實際ノ支出ハ議會ノ協賛ヲ超過スルモノニシテ而モ其ノ實額ハ年々増加スル趨勢ニ在リ是財政ノ便宜上止ムヲ得サルニ出テタルモノナリト雖英國財政ノ根本原則ヲ破壞スル一大欠陥ナリト稱セサルヲ得ス一千九百二十六年度ノ郵便局豫算ハ五千七百三十四萬三千磅ナルモ其ノ内二百四十四萬八千磅ハ實ニ此ノ補助支給ニヨルモノナリ

三、合同資金制

合同資金制ハ一千七百八十七年ノ合同資金條例 (Consolidated Fund Act) ニ基クモノニシテ同條例ニ於テハ國庫ノ收入ニ歸スル一切ノ資金ハ合同資金ノ名稱ノ下ニ統一セラレ國庫ノ支出ハ必ス本資金ニヨリ計上セラルル旨ヲ規定ス從來英國政府ノ歲出ハ夫々特有ナル歲入ニ割充テラレタルモノナリキ例ヘハ義勇兵費ハ地租收入ヨリ支辨セラレ年金ハ郵便收入ヲ以テ支辨セラレ關稅ニ對シテハ實ニ七十四種ノ費目カ充當セラレタルカ如ク一定ノ支出ニ對シ一定ノ收入カ割充テラレタル結果夫々特有ナル資金



ノ分離行ハレ而モ各資金ハ區畫嚴然トシテ互ニ其ノ流用ヲ禁セラレタルカ爲獨立會計ノ科目徒ニ多數トナリ手續上煩累ナルノミナラス流用禁止ハ必然的ニ資金運用上流通性ヲ欠キ延イテ國家經濟上不利益ヲ醸スニ至リ一千七百八十五年會計委員ノ提案スルトコロニヨリ獨立會計制度ヲ撤廢シ合同資金制ヲ設クルニ至リシナリ

## 第二 通信事業財政

### 一、通信事業ノ會計上ノ地位

英國郵政廳ハ他ノ官廳ト等シク上述會計上ノ三原則ノ支配ヲ受クモノニシテ其ノ豫算ノ編成ニ當リテモ (Estimates for Revenue Departments) トシテ他ノ收入官署ト共ニ一括シテ大藏省之ヲ作成シ郵便局ノ總收入ハ一千八百六十六年會計法第十條ノ適用ヲ受ケ大藏省ノ規定シタル規則ニ從ヒ且大藏省ノ指定シタルトキニ英國銀行若ハ愛蘭銀行ニ於ケル國庫ニ支拂フモノナリ此ノ兩銀行ハ國庫勘定 (Exchequer Accounts) ノ科目ノ下ニ一切ノ合同資金ノ預入ヲ受クルモノニシテ郵便局ハ全國ニ亘リ徵收シタル收入ヲ稅關、內國稅務所其ノ他收入ヲ司ル各種ノ官廳ニ於ケルト同様之等兩銀行ノ本支店又ハ代理店ニ假預金トシテ拂込ミ大藏大臣ノ命スル時期ニ於テ隨時之ヲ國庫勘定ニ振替フルモノナリ但シ鐵道ニヨリ運送セラレタル小包郵便ノ總收入ハ一千八百八十二年郵便小包條例ニ依リ其ノ二十分ノ十一又ハ協

定ニヨリ決定セラレタル額ハ倫敦鐵道精算局ヲ通シ鐵道會社ニ支拂フモノナリ以上ノ如ク郵政廳ハ其ノ郵便電信電話事業ヨリ得タル總收入ハ合同資金ニ組入レラレ事業維持ノ爲必要ナル經費ハ大藏省ノ命スルトコロニヨリエキスチエツカーノ長官ニ請求シ長官ハ其ノ請求ト議院ノ議定シタル豫算ノ科目トヲ對照比較シ金額並支出ノ目的ニ相異セサルトキ英國銀行ニ對シ郵政廳ノ支拂命令官ニ若干額ノ信用即チ國庫金引出ノ特權ヲ與フヘキ旨ヲ命令シ英國銀行ハ命令ニ從ヒ之ニ相當スル國庫金ヲエキスチエツカーノ長官ノ計算ヨリ支拂命令官ノ計算ニ移シ此手續ヲ了シタル長官ノ通牒ニ接シ支拂命令官ハ初メテ支拂命令ヲ發シ得ルモノナリ斯ノ如ク會計上郵政廳ハ全ク他ノ行政廳ト異ルコトナク況ンヤ議會ノ協賛ヲ經スシテ單獨ニ郵便電信電話事業ノ經費額ノ決定又ハ公債發行ノ決定ヲ爲スカ如キ財政的自治ヲ有セサルハ言フヲ俟タサル所ナリ

### 二、通信收入

通信事業ノ支出並豫算ノ編成ニ當リテハ上述ノ如ク一般行政官廳ト異ラサル形式ノ下ニ行ハルルヲ以テ理論上ハ事業收入ト支出トノ關係ヲ對比シ相互ニ關聯シテ考慮スルヲ要セスト雖實際上ハ各年度ノ豫算編成、追加支出及料金改正等ニ際シ支出ノ收入ニ及ホス影響並料金改正ニ及ホス影響ハ共ニ考慮セララルハ言フヲ俟タサル所ナリ而モ茲ニ注目スヘキハ通信事業ノ收入ニシテ其ノ支出ヨリ大ナルトキハ其ノ剩餘ヲ一般財源ニ編入シ國家ノ財政困窮スル場合ニ於テハ通信收入ノ國家會計ニ補助スル金



額ヲ維持スルハ勿論大藏省ノ方針ハ寧ロ其ノ補助金額ノ増加ヲサヘ計ラントスルノ事實ナリ即チ英國ニ於テハ通信收入ハ一般財政ノ消長ニヨツテ左右セラレ一ノ收入官署トシテ存在スルモノニシテ此ノ點ニ關シテハ佛蘭西、獨逸等ノ斯業ニ關スル見解ト大イニ異ナリ佛、獨ニ於テハ斯業ノ企業の性質換言スレハ一ノ實業的業務ニシテ其ノ收入ハ其ノ支出ノ結果ナリトイフ見地ニ立チテ收支ヲ對比スヘク特別會計制度ヲ實施スルモノナルモ英國ニ於テハ尙財政的官業トシテ認メラルモノナリ一千九百二十一年郵便料金改正ノ問題議會ニ於テ審議セラルルニ當リ郵政次長ハ其ノ演說中、……………此ノ料金ノ値上ヲ行ヒ國費ヲ調達スヘキ收益ヲ得ヨウトスルノハ苟クモ本件ニ關シ公平ナル觀念ヲ有シ過去ノ事實ヲ念頭ニ置クモノニハ極メテ明瞭ナル事實テアラウ……………ト稱シ郵政長官モ……………現在ノ國家狀態ニ於テハ國家收入ヲ増加セシムヘキ一助トシテ大藏大臣ハ不本意乍ラ郵便局收入ノ檢出ヲ調査セネハナラナクナツタ……………ト稱スルカ如ク通信料金ノ改正モ實際上ハ通信事業ノ財政狀態ヨリモ寧ロ國家ノ財政狀態ニヨツテ決定セラルルモノナリト言フヘシ國家ノ財政豐ナル時ニ於テモ政府ハ通信收入ヨリ事業支出ヲ減シタル剩餘ノ範圍内ニ於テ通信料金ヲ減スヘシトイフ公衆ノ要求ヲ重大視スル有様ナリ

### 第三 商業的計算

#### 一、議會ト通信會計

通信事業ニ對シ財政上上述ノ如キ見解ヲ有スル以上特別ニ其ノ收入支出ノ關係ヲ監督シ又ハ調整スルカ如キ制度ノ存スルコトナク收支ヲ相互關聯シ又ハ個々ニ考慮決定スルヤ否ヤトイフ問題モ其ノ時ノ議會ノ態度ニ依ルモノニシテ議會ニ於テモ特別ノ手續規定ナキハ勿論收支ヲ關聯セシメテ考慮スヘキ規定モ存セス全ク議會ノ自由意思ニヨリテ決定セラルルモノナリ

嘗テ英國ニ於テハ通信事業ノ財政的自治制ノ利害得失ニ付テ政治的興味ヲ喚起スルカ如キ問題ヲ生シタルコトナシト雖一千九百十八年五月郵便料金改正案カ議會ニ提出セラレタル時端ナクモ本事業ノ明瞭ナル收支成績ヲ要求スルモノアリ茲ニ商業的基礎ニ立テル計算ヲ爲スニ至レリ

抑々一千九百十八年ノ議會ハ戰爭費用ノ支出ノ爲英國豫算ハ實ニ八億四千二百磅トナリ凡ユル稅源ニハ課稅シ盡サレ資源ヲ開拓シ收入ヲ求メ得ヘキモノナキニ至リ財政上緊急ナル問題ヲ惹起セリ偶々「戰爭費用ヲ考慮スレハ郵便行政ハ實業社會ノ需要ト公平ナ給料ノ支拂トヲ適當ニ注意シ國ニ出來得ル限り大ナル純收益ヲ上ケシムル様努力セサルヘカラス」トイフ國債整理委員會ノ建議スル等アリ政府モ亦郵便料金ノ改正ニ着目シ半片ノ郵便葉書ヲ一片ニ値上ケシ及内國書籍ニ對シ各種ノ値上ヲ要求セリ然ルニ此ノ時ニ於ケル郵政長官ノ郵便局財政ノ現狀ヲ説明スルニ當リ該年度ノ通信事業收益二百萬磅ニ過キスト説明スルヤ先ニ一般財政説明ノ場合大藏大臣ノ公表シタル郵便事業收益九百萬磅ト大



イニ徑庭アルヲ發見シ議員コルニス氏ハ其ノ理由ヲ問ヒ兩者ノ差異ヲ難詰シ且カカル齟齬ヲ來タスハ畢竟其ノ會計方法ノ當ヲ得サルニ在ルトシ郵政長官ニ對シ議會ニ對スル將來ノ調書ハ議員カ明白ニ收支關係ヲ知悉シ得ル様普通商業上ノ損益調書ヲ作成スヘキコトヲ要求シ郵政長官亦考慮スヘキ旨ヲ答ヘ以後郵政廳ハ議會ニ對シ一般豫算調書ノ外參考トシテ商業的計算書ヲ添付スルコトナレリ

然レ共茲ニ注意スヘキハ斯カル計算方法ノ發生ハ單ニ收支關係ノ明瞭ヲ期シ議會ヲシテ充分ナル理解ヲ得セシムルニ止リ積極的ニ其ノ收入ハ以テ支出ヲ支フルニ足ル程度トナスヘキコトヲ教ヘタルニ非サルハ勿論通信事業ニ對シ之ヲ特別會計トスル前提ナリトモ斷スルコトヲ得ス然レトモ政府カ議員ノ要求ヲ容レ斯カル計算書ヲ作成スル所以ヨリ觀レハ斯業ノ性質ハ已ニ一般行政機關ト比較スヘカラサルモノナル事實ヲ表示シタルモノト言フヘシ

## 二、計算方法

本計算ハ議會ニ對シ計上シタル種々ナル計算書中ヨリ收入、資本費、事務費ヲ採録シ收入ト支出トヲ基礎トシテ整理シ斯業ノ收支過程損益等ヲ一目瞭然タラシメタリ豫備金ハ資本銷却費及年金負擔ノ準備金トシテ存置セシメ利子ハ凡テノ借入資本及借入資本トシテ取扱ハルヘキ金額ニ課シタリ而シテ本計算ハ全ク商業的基礎ニ立チ一ノ經濟體トシテ看ル以上一企業狀態ヲ明瞭ニ知悉シ得ル方法ヲ具體化セサルヘカラサルヲ以テ本計算書ニ於テハ各事務別ニ貸借對照表ヲ附シ事業成績ヲ概括シ資本ノ移動

即チ増加缺損ヲ一瞥ノ中ニ看得ルコトトセリ

### (1)官廳相互間ノ事務

商業的ニ管理セラルル企業ハ其ノ收支スル一切ノ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ許サス然ルニ豫算面上ニ表ハレタル通信事業會計ニ於テハ收支セラルヘキモノニシテ計記セラレサルモノ多シ例ヘハ積極的方面ニ於テハ郵便局ハ他ノ官廳ノ爲ニ種々ナル事務ヲ行フ郵便ニ關係アル事務トシテハ郵便物ノ送達郵便爲替及小爲替事務ニシテ其ノ他種々ナル特殊事務ヲ爲スト雖就中重要ナルハ戰爭年金、家族扶助料及養老年金ノ支拂戰時公債及國立銀行株券ニ關スル事務及國ノ保險ニ對スル掛金支拂ニ要スル印紙ノ賣捌等ニシテ之等通信並通信以外ノ事務ヲ提供スルモ此等ニ對シ何等現金ノ支拂ヲ受ケス一切無料取扱ヲ爲スモノナリト雖此等ニ對シ計算ノ行ハルルコトナク全然收支關係ヨリ葬リ去ラルルモノナルモ本計算ニ於テハ貸方記入額トシ一般市場率又ハ實費ヲ算定シテ存置セシメタリ電信電話事務ハ僅少ノ例外ヲ除キ大體現金支拂ヲ受クルヲ以テ本計算ニサシタル障礙ナシ而シテ受動的方面ニ於テハ郵便局ハ他官廳ヨリ數多ノ事務ヲ提供ヲ受ケルモノニシテ此等ノ中主ナルモノハ建物ヲ築造維持スル工務局 (Office of works) 書類、文具、印刷物ヲ供給スル文具供給局 (Stationary Office) 官廳用土地建物ノ租稅ヲ代辦スル大藏省等ニシテ此等ニ對スル費用ハ當該關係官廳ノ負擔ニ歸シ現金支拂ニ依リテ整理セラレス依ツテ本計算ニ於テハ適當ニ借方記入ヲ爲スモノトス



(2) 分割計算

郵便局豫算ノ計上方法トシテハ經費ハ郵便電信電話間ニ區別ヲ設ケス總括シテ十七項目トシテ各事務ヲ横斷的ニ分類スルニ過キササルモノナレトモ商業的計算ノ目的ヨリ觀ルトキハ二事務以上ニ關聯スル豫算費ハ事務別ニ之ヲ分割スヘキモノナルヲ以テ本計算ニ於テハ之等三個ノ事務間ニ大體區別ヲ設ケタリ

之等分割計算ヲ爲スニ當リ技術費ハ容易ニ區別シ得ラルルヲ以テ問題ナキモ通常事務ニ關スル費用ノ分割ハ相當ニ困難ナリ故ニ此ノ點ニ關シテハ大藏省及郵便局ノ代表者ヨリ成ル通常事務分割委員會(Common Service Apportionment Committee)ニヨリテ特ニ其ノ目的ノ爲ニ蒐集セラレタル報告書等ヲ參考トシ決定セラル、郵便局ノ通常事務費ノ大半即チ一千九百二十五年年度ニ於テハ其ノ八分ノ七カ俸給及手當ニ充當セラレ其ノ七割五分ハ事務特定スルモノニ對シ他ノ二割五分ハ從事シタル時ニ應シテ各其ノ分割計算中ニ組入レラレタリ

(3) 資本

郵便局ノ資本ハ大體次ノモノヨリ成ル

- (イ) 電信電話電燈等ノ技術的設備及備品
- (ロ) 土地及建物

(ハ) 倫敦地下電氣鐵道

其ノ他資本ト目セラルヘキモノ種々アリ即チ郵便函、在庫制服、特定セル一般器具、家具、自動車等ヲ列舉シ得ルモ此等ハ大體ニ於テ存續生命短ク總額ニ於テモ僅少ニシテ之ニ對スル經濟モ年々大ナル不規則的變動ヲ爲ササルヲ以テ之等ニ對スル費用ハ購入シタル時ノ所得ニ對シテ支拂ハルルモノトス郵便事務ノ資本費ノ大部分ハ土地建物ニシテ各計算ヲ分割セリ而シテ性質上現金支拂制(Cash payment)ニ則リ郵便事務ニ對シ貸借關係即チ資産及負債ノ勘定ヲ有セス

倫敦郵便物輸送地下鐵道ノ資本ハ其ノ一部分ヲ一千九百十三年倫敦鐵道郵便條例ニヨル公債ヲ以テ支辨セラレ一部分ハ豫算科目ニ計上セラレタル大藏省ノ立替金ニヨルモノニシテ貸借對照表中ニ包含セシメ之ニ對スル利子及資本銷却費ハ郵便事務ノ收支勘定中ニ組入レラル

(4) 利子

郵便局ノ資本ノ大部分ハ電話事務ニ關スルモノナリ電話事務費ハ次ノモノヨリ成ル

- (イ) 電話條例ニ依ル公債 之ニ對スル利子ハ年ニヨリ異ルト雖三分ヨリ六分迄ノ間ヲ上下ス
- (ロ) 大藏省證券 利子三分(公債發行期ニ於ケル率)
- (ハ) 豫算科目中ニ計上セラレタル大藏省立替金 利子ハ次ノ如シ  
一千九百十二年三月三十一日迄ノ費目ニ付キテハ三分



一千九百二十二年四月一日ヨリ一千九百二十四年三月三十一日迄ノ費目ニ付キテハ一千九百二十四年三月三十一日ニ於ケル地方公債基金ヨリノ公債ニ對シ決定セラレタル率ノ最小限度即チ四分ノ一、一千九百二十四年四月一日ヨリノ費目ニ付キテハ毎年其ノ支出年度ニ對シ當該支出年度末ノ地方公債基金ヨリノ公債ニ對シ決定セラレタル率ノ最小限度

土地建物ニ對スル費用即チ借地料等ニ付キテハ一括シテ土地建物トシテ別ニ一定ノ項ヲ設ケテ決定シ倫敦鐵道郵便條例ノ公債ニ依リ供給セラルル比較的小額ナルモノヲ除キ其ノ他ノ殘餘資本費ハ豫算科目ニ計上セラレタル大藏省ノ立替金ニ依ルモノニシテ此ノ利子ハ上述ハニ依テ決定セラル

凡テノ勘定ニ於テ未濟資本ニ對スル利子ハ損益勘定ノ決定セララルル前ニ收納セララルモノトス

#### (5) 資本銷却

企業的見地ヨリ觀レハ資本ハ其ノ性質ニヨリ計算ヲ分類スルコトヲ要ス例ヘハ石炭ノ如キ消耗品ト目セラルヘキモノト機械ノ如ク使用ニヨリテ生スル減損相當額ヲ支拂フモノトハ異ル一ハ收入ヲ以テ消耗品ノ全額ヲ支辨スヘキモノナルモ機械等ニ在リテハ使用減損相當額ヲ貯蓄シ増加シ將來該機械廢棄ノ場合之ヲ更新シ得レハ足ルモノナリ然ルニ之ヲ國家豫算ノ作用ニ於テハ支出ノ事實アルノミニシテ支出ノ性質ニ及ハス即チ其ノ作業上必要ナル經費モ創設費モ共ニ國民ヨリ徵收スル豫算ニヨリテ支辨セラルルヲ以テ此等ハ商業的計算ニ於テハ全然改メラレサルヘカラス即チ資本銷却費トシテ電信電話

電燈其ノ他ノ諸備費ニ對シテ計上シ大西洋海底電線ノ場合ヲ除キ其ノ銷却方法ハ原價ニ對シ直線法 (Straight line method) ヲ採用シ而シテ一千九百十四年以降ニ於テ更新セラレタルモノナルトキハ其ノ更新費ニヨルモノトセリ此等銷却積立金トシテ決定セラルヘキモノニ不都合ナカラシムル爲計算根據ハ設備ヲ適當ニ區分シ技師長ノ見積リタル壽命年數ニ置ケリ倫敦郵便鐵道ノ設備壽命年數ハ鐵道技師ト協議シ技師長之カ見積リヲ爲スモノトス

大西洋海底電線ノ場合ハ資本銷却額ハ電信費及帝國海底電信事務費中ニ包含セラレ複生産費 (Current Replacement) ニ根據ヲ置キ貯金局ノ印刷及製本設備ニ關スル計算ハ直線法ニ則リ文具供給局及印刷業ノ代表者ノ協議シタル壽命年數ニ根據ヲ置ク

直線法ニ於テハ設備更新ニ對シテ要求セララルル總額ニ收入ヲ以テ充當スルモノナレハ銷却費トシテ蓄積セラレタルモノヨリ得ラレタル利子ハ銷却勘定ニ於テ貸方ニ記入セララルコトナク從ツテ公債其ノ他ノ資本ニ對スル利子ハ減セラルルモノナルモ電信事務ニ於テハ收入ヲシテ銷却ニ對シ要求セララル額ヲ償ハシムルコト能ハサルモノナルヲ以テ利子ヲ生スル餘地ナシ然レトモ銷却勘定ニ於テハ諸設備ノ實際價格ヲ明ニスル爲見積額ヲ存置セシム

#### (6) 土地及建物

特定事務ノ爲ニ建物ノ全部又ハ一部ノ使用セララルル場合ハ比較的可動的ナルヲ以テ郵便局ノ土地建物



ノ資本費ヲ事務別ニ分割シ毎年之ヲ更正スルハ困難ナリ故ニ左ノ如ク分割シテ計算ヲ行フ

(イ) 郵便局若ハ工務局ノ何レノ監理ニ屬スルヲ問ハス土地建物ノ全價額

(ロ) 資本銷却費及利子ヨリ成ル毎年ノ税及賃借料

而シテ各事務別ノ收入勘定ニ於テハ賃借料トシテ設定セラルルモ之等ハ各當該事務ノ爲ニ實際用ヒラルル局舎ノ使用料ナリ

此ノ計算ノ目的上建物ハ數種ニ分類セラル即チ工務局ノ決定スル所ニ從ヒ平均有效壽命年數ハ六十四四年乃至三十六年トス

而シテ毎年ノ費用トシテ計上セラルルモノハ

(イ) 豫定ノ壽命期限ノ終了迄ノ前拂

(ロ) 未済費用額ニ對スル毎年ノ利子

ナリ

所有權ヲ有スル敷地ノ價額ハ銷却セラレサルモノトシテ計算セラルルモ之ニ對スル利子ハ支拂ハルル利子ハ年賦及直接ノ兩様式ヲ以テ計算セラル

(イ) 一千八百九十二年以前ノ經費ニ對シテハコンソル(三分利附英國公債證書)ノ該年度ニ於テ決定セラレタル率ニ適應スル利率

(ロ) 一千八百九十二年以後一千九百二十三年三月三十一日迄ノ經費ニ對シテハ當該支出年度ニ於ケル國債委員會(National Debt Commission)ノ決定ニヨル公債利率

(ハ) 一千九百二十三年四月一日以後ノ經費ニ對シテハ毎年其ノ支出年度ニ對シ當該年度末ニ於ケル地方公債基金ヨリノ公債ニ對シ規定セラレタル率ノ最小限度、實際支出セラレタル年度ニ於テハ特ニ其ノ年度ノ平均銀行利子歩合ニヨル

電燈及電力設備ハ同様ノ分割計算理由ニ基キ此ノ計算中ニ包含セラル而シテ資本銷却費及利子モ他ノ機械的設備ト同列ニ計算セラル

(7) 年金負擔

統計局(The Government Actuary)ニヨル最近調査ノ結果ヲ基礎トシテ作成セラレタルモノナリ

(8) 保險

局舎ノ火災其ノ他作業上ノ危險ニ對シテハ保險ヲ附サス但シブラックフリヤー發電所ノ場合ハ假定的火災保險料ヲ支拂フモノトス

(9) 在庫品ノ評價

在庫備品ハ價格帳簿ニヨリ評價セラル即チ在庫品カ實際購入セラレタル時ノ平均價額ニ據ル之レ此等ノ在庫備品ハ商業的在庫品ニハ非スシテ使用又ハ作業上ノ目的ノ爲ニ存スルモノナルヲ以テ再評價ヲ



附スルヲ要セサルヲ以テナリ從ツテ現今ノ如ク戰爭當時ヨリ貨幣價值ノ低下セル場合例ヘハ一千九百二十六年三月三十一日ヲ評價時期トシ其ノ時ノ購入價格ヲ以テ評價スルトセハ其ノ綜合價值ハ實際ノ帳簿價格ヨリモ多少低ク見積ラルル譯ナリ

貯金局カ印刷及製本ノ目的ノ爲ニ保存スル用紙及材料、ブラックフリヤー發電所ノ燃料ハ原價ヲ以テ各當該勘定中ニ表示セラル

三、結 論

以上ハ商業的計算ノ根本事項ナルカ更ニ此等ノ計算中ヨリ諸ノ補助事務例ヘハラヂオ聽取免許、無線事務、海底電信、大陸電話、ブラックフリヤー發電所、貯金局ノ印刷製本、電信資本及電信料等ヲ抽出シ更ニ詳細ナル計算ヲ爲スモ今日ハ之ヲ省略ス

英國通信事業ハ前述ノ如ク國家ノ財政收入ヲ目的トシテ居ルモノナル以上一般豫算ト分離シテ國家ノ收入支出間ニ全然關係ヲ有セサル組織トナスコトハ事實上不可能ナルモ從來ノ如ク收入支出ノ對比ナキ事業監理ハ斯業カ純然タル官廳事務ト其ノ經營ヲ異ニスル性質上又採ルヘキモノニ非ス

此處ニ於テ英國通信事業ハ其ノ會計ヲ分離スルコトナク而モ其ノ事業ノ性質タル企業即チ利益ヲ得ンカ爲ニ支出ヲ爲ス經濟體ナル點ニ鑑ミテ其ノ管理方法トシテ商業的基礎ニ立テル計算方法ヲ別個ニ樹立シタルハ佛蘭西、獨逸等ノ如ク附帶豫算又ハ純然タル獨立會計ト爲スモノト比較シ大イニ興味アル問題タリ

一 郵便電信電話清算書

一九一二年以降ノ純收支勘定

年次	郵 便	電 信	電 話	計
一九一三年	五,五五三,三三五 <sup>磅</sup>	△一,一七五,三四七 <sup>磅</sup>	三〇三,三四三 <sup>磅</sup>	四,六八一,三三二 <sup>磅</sup>
一九一四年	六,一七二,七六三	△一,二二一,七四三	二二九,一一一	五,二〇〇,一三三
一九一五年	四,八八八,二二七	△一,二三三,九五五	△一一,〇一八	三,五四四,二五四
一九一六年	六,〇〇四,六四八	△五二〇,〇四七	△一一八,一七七	五,三六六,四二四
一九一七年	六,五一九,四一一	△五二九,六三九	二〇一,七二九	六,一九一,五〇一
一九一八年	六,八四八,二八五	△五五六,三三〇	三五五,四六八	六,六四七,四二三
一九一九年	八,一六八,九五六	△六八五,一三九	△三六,三六一	七,四四七,五五六
一九二〇年	三,四六九,八二八	△二,六三六,一八三	△一,九六一,七二〇	△一,一七八,〇六五
一九二一年	一,七二四,三三八	△三,七二八,七七九	△四,七二一,九七〇	△六,七三六,五一一
一九二二年	二,三三〇,六二六	△三,〇三二,三四六	△五五九,一三三	△一,二六〇,七五三



一九二三年	五,二〇八,〇七三	△一,六九六,八三六	九三九,〇〇九	四,四五〇,二四五
一九二四年	四,九六五,〇三〇	△一,二七〇,九三五	一,五九六,九一七	五,二九一,〇二二
一九二五年	六,六一二,一三三	△一,六四五,五二五	四六三,〇〇六	五,四二九,五九四
一九二六年	七,四一六,二六六	△一,二九九,二四四	五五〇,八三〇	六,六六七,八八二
			五九六	

一一 一般勘定

(1) 一九二五年度(一九二六年三月三十一日現在) 一般收支勘定

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
監理費及事務費	二九,五七〇,一三三 <small>磅</small>	五五六四	三一,四四一,五四一 <small>磅</small>	五六九五
俸給手当及給與	二八一,七〇七	〇・五三	二九七,〇〇三	〇・五四
旅費法律事務所費其ノ他雜費	一〇六,五七五	〇・二〇	九六,七二九	〇・一七
電信事務取扱費トシテ鐵道會社其ノ他ヘノ支拂	四七八,一〇六	〇・九〇	五七九,七三五	一・〇五

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
文房具印刷物	三九七,八九〇	〇・七五	四五七,二五七	〇・八三
遞送費	三〇,八三四,四一一	五八〇三	三三,八七三,二六五	五九五四
行囊及郵便函	五,三二三,六六七	一〇・〇〇	五,四〇三,三三四	九七八
切手爲替券ノ製造及供給	一六〇,七三四	〇・三〇	一六五,六四四	〇・三〇
電信電話設備維持	一五〇,二五八	〇・二八	一四九,九一七	〇・二七
俸給手当及給與	一,八九九,八八三	三五七	一,九九八,五六八	三六二
材	二二一,〇二四	〇・四〇	二三一,四五七	〇・四二
電線ノ税金	二二七,四四三	〇・四一	二一九,七一四	〇・四〇
通 行 許 可	八一,五三四	〇・一五	七四,五六一	〇・一三
鐵道會社ニ依ル電線維持	四二,一六六	〇・〇八	三五,四九〇	〇・〇六
旅 費、 雜 費	二八一,五三六	〇・五三	三三三,三八二	〇・五九
計	二,七三三,五八六	五・一四	二,八八三,一七二	五・二二
貸借料其ノ他	三〇九,四九三	〇・五八	三四三,一九三	〇・六二
借入財産			五九七	



他官廳ヨリ借入レタル局舎	一、三五〇	〇〇三	二〇、八五八	〇〇四
土地家屋税	三五八、三五八	〇六七	三四二、六五九	〇六三
細工物及家具	一三六、八八八	〇二六	一九六、四一九	〇三六
建物維持及修繕	三〇三、〇九〇	〇五七	三七三、六八五	〇六八
水、燈、熱等	六四一、九一八	一一一	六三六、三〇六	一一四
計	一、七六一、五四六	三・三一	一、九一三、一一〇	三・四六
年金負擔	三、一二六、八二六	五八八	三、二九〇、〇二六	五・九六
年金支拂額	二、八二八、八一七			
資本銷却準備金	三、六六六、〇四二	六九〇	四、一三八、五三三	七・五〇
電信電話設備	二〇七、九六一	〇三九	二二二、九九三	〇・四〇
建物及電燈等ノ設備	三、八七四、〇〇三	七二九	四、三六一、五三五	七・九〇
資本利子	二、九五四、四六三	五・五六	三、五〇七、一〇一	六・三五
電信電話設備ニ關スルモノ	五四六、八七七	一・〇三	六〇一、五〇一	一・〇九
土地建物電燈設備ニ關スルモノ				

五九八

賞與	三、五〇一、三四〇	六五九	四、一〇八、六〇三	七・四四
合計	一、六九二、九一三	三・一九	七四、六二四	〇・一三
本年	五、四三九、五九四	一〇〇・〇〇	五五、二二二、二二九	一〇〇・〇〇
本年	五、四三九、五九四		六、六六七、八八三	
總計	五、五七八、九三六		六、一八九〇、一一一	

備考 一九二四年度ノ勘定ニ於テハ貯金及年金事務ヲ除ケリ

收入

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
郵便事務	三五、二六五、〇三四 <small>磅</small>	六〇・二〇	三六、一七四、四四 <small>磅</small>	五八・三六
電信事務	四、九七三、四五四	八・四九	四、八三八、八七七	七八二
電話事務 <small>(官廳無料事務ヲ含ム)</small>	一四、七八二、二二九	二五・二四	一五、九三七、五五一	二五・七五
爲替事務 <small>(官廳無料事務ヲ含ム)</small>	五五、〇二〇、七二七	九三・九三	五六、八九三、八七二	九一・九三
	二八八、二二七	〇・四九	二九〇、七〇〇	〇・四七
			五九九	



郵便小爲替事務(官廳無料) 事務ヲ含ム	七九六、七八四	一・三六	八五三、九五六	一・三八
諸代理事務(官廳無料) 事務ヲ含ム	二〇九四、九八四	三五八	三、三〇八、八一九	五・三四
諸使費用料	七九、〇三八	〇・三三	七四、三三七	〇・二三
無線聽取免許	一二七、二五八	〇・三二	二八四、三〇五	〇・四六
廣告及特權料	一七一、九三〇	〇・二九	一八五、三三三	〇・三〇
合計	五八、五七八、九三八	一〇〇・〇〇	六一、八九〇、一一一	一〇〇・〇〇

(ロ) 貸借對照表

負債ノ部

區別	一九二四年度	割合	一九二五年度	割合
電信條例(二八九一—一九三五)ニ依ル公債未拂高(一九一一年電話聯絡條例一九一三年倫敦鐵道郵便條例ノ場合ヲ包含ス)	四四、九二四、五六 <sup>磅</sup>	四八・三五	五四、三二五、五一 <sup>磅</sup>	三・三七
大藏省證券未拂高(電話)	二、一九七、四〇〇	二・三七	一、八六〇、二〇〇	一・七六

區別	一九二四年度	割合	一九二五年度	割合
大藏省立替金等計	四〇、三四五、二四一	四三・四三	四三、五二四、八九〇	四一・二六
工業需品ノ諸貸主	八七、四六七、二〇七	九四・四	九九、六九〇、六〇八	九四・二九
立替豫約金及諸貸主	二四三、一四五	〇・二六	四一一、二一九	〇・三九
大藏省ニ對スル未收入未拂高	三、三六三、〇六〇	三・六三	三、七八八、八七七	三・五八
合計	一、八四〇、七七六	一・九八	一、八四三、八八五	一・七四
合計	九三、九一四、一八八	一〇〇・〇〇	一〇五、七三三、五八九	一〇〇・〇〇

一千九百二十五年度ニ於テ機械設備ハ善良ニシテ効率宜シキヲ得且修繕セラレテ維持セラレタルコトヲ證明ス

上記三百五十七萬九千四百十八磅ハ一千九百二十六年三月三十一日現在ニ於テ在庫スル工業需品ノ價格タルコトヲ證明ス

技師長 テク・エツ・バーヴス  
郵便倉庫局長 エツチ・スパーク



資産ノ部

區別	一九二四年度	割	一九二五年度	割
所有權ヲ有スル土地建物	一四、一八八、四一八 <small>磅</small>	一五・二七	一五、二〇六、六八三 <small>磅</small>	一四・三八
借入土地建物	一、一三一、二九三	一・三三	一、二四九、〇一一	一・一八
設備	六九、三六六、九九四	七四・六八	八〇、〇六六、七二五	七五・七三
在庫工業需品	三、〇〇三、六四七	三・三三	三、五七九、四一八	三・三九
諸債務者	二、四八三、五三一	二・六七	二、八三五、二六三	二・六八
現金手許有高者	二、七三〇、三二五	二・九三	二、七九六、四九九	二・六四
收支計算ニ	一、七八八、二四五	一・九三	二、〇六六、九六三	一・九五
加入者納金	九三三、〇七〇	一・〇〇	七三九、五三六	〇・六九
合計	九三、九一四、一八八	一〇〇・〇〇	一〇五、七三三、五八九	一〇〇・〇〇

會計検査官

エツチ・エヌ・バンバリ

一九二六年十二月二十九日

三郵便事務

收支勘定

支出

科目	一九二四年度	割	一九二五年度	割
監理費及事務費	二一、三〇三、九一二 <small>磅</small>	六六・九〇	二二、〇五二、八五三 <small>磅</small>	六九・五〇
俸給手当及給與	二二七、七七三	〇・六九	二二二、三三三	〇・七〇
旅費法律事務費及雜費	三七六、三三三	一・一八	四七一、三〇四	一・四三
被服及雜需用品	一五〇、三〇九	〇・四七	一七六、二七一	〇・五三
文房具、印刷物費	二二、〇四八、三二六	六九・二四	二二、九三三、七五一	七二・一五
計	五、二三七、九七八	一六・四五	五、三三六、〇一一	一六・〇三
遞送費 <small>(外國及殖民 地ヲ除ク)</small>	三、六六一、一五〇	一・一五〇	三、七九〇、二四二	一・一四三
鐵道ニ依ルモノ	一、七三七、四五九	五・四六	一、八二七、七二三	五・五二
通常郵便	一、九二三、六九一	六・〇四	一、九六二、五二九	五・九三
小包			六〇・三	



道路	ニ依ルモノ	七四,四五三	二・四〇	六九,八七六	二・二一
海路及空路	ニ依ルモノ	八一,三七五	二・五五	八二,九〇三	二・四九
郵便局地下電氣鐵道		七五,六八九	〇・二四	八七,三二三	〇・二六
行囊及郵便函		一六〇,七九四	〇・五〇	一六五,六四四	〇・五〇
切手及爲替券ノ製造供給		一五〇,三八五	〇・四七	一四九,七二七	〇・四五
賃借料其ノ他					
郵便局所有資産		三六八,三〇二	一・一六	四一三,四八三	一・三五
借入資産		一三六,一九七	〇・四三	一五四,〇八四	〇・四七
土地家屋稅		一八八,〇七九	〇・五九	一七九,五五七	〇・五四
細工物及家具		七二,一〇七	〇・二二	一〇三,〇四二	〇・三一
建物ノ維持及修繕		一五九,四一三	〇・五〇	一九六,四五二	〇・五九
水、燈、熱等		三三七,一四八	一・〇六	三四五,四二二	一・〇四
計		一,二六一,一四六	三・九六	一,三九二,〇二九	四・二〇
年金支拂額ハ		二,〇五八,五〇八	六・〇五	二,〇五七,九九七	六・二〇
年金負擔		一九二,五七三			

六〇四

雇員賞與	九八五,一九三	三・〇九	六九,八五五	〇・一一
合計	三,一八五,一一三	一〇〇・〇〇	三,一七一,三三七	一〇〇・〇〇
剩餘	六六二,一一三		七,四一六,二六六	
總計	三八,四五七,二六六		四〇,五八七,五九三	

備考 一 貯金及年金事務ヲ含マス

二 他ノ官廳ノ爲ニ爲シタル無料取扱ヲ有料トシテ算入セリ

三 一九二六年三月三十一日現在ニ於テ一、一七六、三七〇磅ノ領收額ハ本計算中ニ包含セラル

ルモ大藏省ノ支拂ヲ濟マサス

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
郵便事務	三,四八〇,八七九 <small>磅</small>	八九・六六	三,五,四五三,〇八七 <small>磅</small>	八七・三五
印紙收納	一,四九五,五八一	三八・八九	一,八四六,一八八	四・五五
現金收納	九四二,六七一	二・四五	三四〇,七二七	〇・八四
外國及殖民地局ヨリ支拂ハルヘキ額			六〇五	



雜 收 入	八二,六三五	〇・二二	八一,四七一	〇・二〇
官 廳 無 料 事 務	一,三九〇,一二九	三・六三	一,三三八,六九四	三・三〇
計	三,八三九,八九五	九九・八三	三,九〇五,一五七	九六・二四
(不 足)				
小 包 ノ 關 稅	四九,八一〇	〇・一三	七八,八三三	〇・一九
外國及殖民地局ニ支拂フヘキ額	一,一三八,五九〇	二・九六	八三五,八三四	二・〇四
內國收入官廳へ印紙ノ分割	一,九四,六九三	四・九八	二,〇二二,七五四	四・九六
郵便料等ノ補償	三三,七六九	〇・〇六	二四,二九三	〇・〇六
計	三,一二六,八六一	八・一三	二,九四一,七一一	七・二五
再 計	三五,二六五,〇三四	九・一七〇	三六,一七四,四四四	八八・九九
爲 替 事 務	二二七,〇六三	〇・五九	二二二,九五八	〇・七八
國庫金及其ノ他國家收納金手數	三三,〇七九	〇・〇八	三〇,三三九	〇・〇八
外國及殖民地局ヨリ受取リタル手數料	四一,三五三	〇・一一	四〇,八九四	〇・一〇
官 廳 無 料 事 務	三〇一,四九四	〇・七八	三〇四,一八一	〇・七五
計				

六〇六

(不 足)	一三,二六七	〇・〇三	一三,四八一	〇・〇三
外國及殖民地局ニ支拂ヒタル手數料	二八八,二七七	〇・七五	二九〇,七〇〇	〇・七二
再 計	七九六,三三五	二・〇七	八五二,三三六	二・一〇
諸 收 納 金 手 數 料	五四九	—	六三〇	—
官 廳 無 料 事 務	七九六,七八四	二・〇七	八五二,九五六	二・一〇
計				
雜 代 理 事 務	九九,〇二〇	〇・二六	一,二四六,四九八	三・〇七
郵 便 貯 金 基 金	九九,〇二〇	—	一,三三二,七六八	〇・三三
計	九,九〇二〇	〇・二六	一,三三九,二六六	三・四〇
官 廳 無 料 事 務	四七,〇四四	一・一一	四五五,五二〇	一・一一
年 金 恩 給 (支 拂)	六四一,二〇〇	一・六七	六一二,六九〇	一・五二
國 債 事 務	二四三,七三四	〇・六三	二五三,三二七	〇・六二
養 老 年 金 (支 拂)				

六〇七



雜	計	一七二,〇〇〇	〇・四五	一八七,一九一	〇・四六
廣	告	二,〇七八,九八八	五・四一	三,二九三,三四六	八・一一
合	計	二八,一九三	〇・〇七	三三,一四七	〇・〇八
合	計	三八,四五七,三三六	一・〇〇〇	四〇,五八七,五九三	一・〇〇〇

四 電 信 事 務

(イ) 収 支 勘 定

支 出	科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
監 理 費 及 事 務 費		四,二二一,三五七	六・三五	四,一九五,四九三	六四・九三
俸 給 手 當 及 給 與		三三,〇七四	〇・四九	三三,一一一	〇・五一
旅 費、法 律 事 務 費					

會 計 檢 査 官 エツチ・エヌ・バアンバアリー  
一九二六年十二月二十九日

其 他 雜 費	九九,五五一	一・四七	九七,〇〇〇	一・五〇
電 話 事 務	一〇六,五七五	一・五七	九六,七三七	一・五〇
電 信 事 務 取 扱 費 ト シ テ 鐵 道 會 社 其 ノ 他 ノ 支 拂	五五,六九一	〇・八二	五五,一〇五	〇・八六
被 服 及 雜 需 用 品	三九,〇七一	〇・五八	四四,五九四	〇・六九
文 房 具 及 印 刷 費	四,五五五,三一九	六七・一八	四,五二二,〇三〇	六九・九九
計				
設 備 維 持 費	一七九,三六二	二・六四	一八三,八七〇	二・八五
俸 給 手 當 及 給 與	二五,二〇九	〇・三七	二七,八六七	〇・四三
材 料	二,四三〇	〇・〇三	二,二九八	〇・〇四
電 線 ノ 稅 金	三三,九八〇	〇・四九	二八,三三〇	〇・四四
通 行 許 可 費	三一,五七九	〇・四七	二六,四三八	〇・四一
鐵 道 會 社 ニ 依 ル 電 線 維 持	五七,三九九	〇・八五	六二,九三三	〇・九七
旅 費 及 雜 費	三三,八九九	四・八五	三三一,七三五	五・一四
計				
賃 借 料 其 ノ 他				



收入	一九二四年度		一九二五年度	
	金額	割合	金額	割合
郵便局所有資産	一八,五五八	一・七五	一四,〇九八	一・九三
借入資産	四一,八六八	〇・六三	四二,八〇〇	〇・六六
土地及家屋税	五八,四一〇	〇・八六	五三,四四四	〇・八三
細工物及家具	二二,八七五	〇・三四	三一,五二三	〇・四九
建物ノ維持及修繕	五〇,四八二	〇・七四	五九,八二一	〇・九三
水、燈、熱等	一〇八,〇〇二	一・五九	一〇〇,七九〇	一・五六
合計	五,二八四,四六三	七七・九三	五,二六六,二四一	八二・五一

六一〇

科目	一九二四年度		一九二五年度	
	金額	割合	金額	割合
英國郵便局ノ收納シタル配達料及電線貸貸料電報略號登記料	四,九八三,七〇五 <sup>磅</sup>	九七・〇一	四,八二九,九六七 <sup>磅</sup>	九三・五七
官廳無料事務	七,二〇六	〇・一七	三,九四一	〇・〇八
(不足)	四,九九〇,九一一	九七・一八	四,八三三,九〇八	九三・六五
海底電信會社及外國郵便局ニ支拂ヒタル額	一,二四三,八八一	二四・二〇	一,二四一,八九〇	二二・一三

辨償金	一九二四年度		一九二五年度	
	金額	割合	金額	割合
再計	一,二四五,八六三	二四・二六	一,一四四,七二二	二二・一八
海底電信會社及外國郵便局ニ支拂タルヘキ額	三,七四五,〇四八	七二・九二	三,六八九,一九六	七一・四七
合計	一,二二八,四〇六	二二・九二	一,一四九,六八一	二二・二七
他ノ官廳ノ爲ニ行ハルル諸代理事務	四,九七三,四五四	九六・八四	四,八三八,八七七	九三・七四
支拂ヲ受ケタルモノ	七,八七〇	〇・一五	八,八六六	〇・一七
取扱無料ナルモノ	八,一二六	〇・一六	六,六〇七	〇・一三
計	一五,九九六	〇・三二	一五,四七三	〇・三〇
無線聽取免許	五九九,二六一	一・一六	七八四,三〇五	一五・一九
(不足)	四七二,〇〇三	九・一九	五〇〇,〇〇〇	九・六八
ブロードキャスティング會社ヘノ支拂	一三七,三五八	二・四八	二八四,三〇五	五・五一
計	一六七,七五五	三・四八	一三七,五八六	三・四八
純收勘定ノ繰越高	五,二八四,四六三	七七・九三	五,二六六,二四一	八二・五一

六一一



(ロ) 純收支勘定  
支 出 (イヨリ續ク)

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
收支勘定ヨリノ繰越	一六七,七五五 <small>磅</small>		一三二,五八六 <small>磅</small>	
年金 負擔	四三六,八二五	六四四	四三五,五八四	六七四
年金 支拂 額	四一七,四五六			
資本 銷却 準備 金	四〇七,〇八五	六〇〇	四一四,九一三	六四三
賞 與	三二八,六九三	四七〇		
計	一,三三〇,三五八		九七八,〇八二	
利子以外ノ損失額	一,三二一,三五三		九五四,六六二	
資本 利 子	三三四,一七二	四九三	三四四,五五二	五三三
計	一,六四五,五三五		一,二九九,二一四	

收 入 (イヨリ續ク)

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
廣 告 及 特 許 料	一九,〇〇五 <small>磅</small>	〇・二七	二二,四二〇 <small>磅</small>	〇・四五
利子以外ノ損失	一,三二一,三五三		九五四,六六二	
計	一,三三〇,三五八		九七八,〇八二	
年 損 失 額	一,六四五,五三五		一,二九九,二一四	

(ハ) 資本銷却勘定

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
更 新 費	七五,三四四 <small>磅</small>	一・五九	八四,六七三 <small>磅</small>	一・七七
俸 給 手 當 及 給 與	六四,七七三	一・三六	六〇,八七三	一・三八
材 料	四七,三六九	一・〇〇	三九,六五八	〇・八三
鐵道會社ニ依ル更新費	六五,七五四	一・三九	四五,七六三	〇・九六
運 賃 旅 費 及 雜 費				
計	二四七,九六六	六・一三	二三〇,〇七七	六・一三



計	一九二四年度		一九二五年度	
	割	合	割	合
設 備 排 除 (永久使用ニ耐ヘサルモノ)	二五三,二四〇	五三・四	二三〇,九六五	四八・四
電話事務ニ流用セラレタル準備	八,七五六	〇・一九	三五,二一八	〇・七四
電話ノ消耗	一七,〇〇〇	二・四七	—	—
合 計	四三五,八五三	九二・〇〇	四,五〇七,三六二	九四・四三
線 越 殘 高	四,七三七,五三九	一〇〇・〇〇	四,七七三,四四五	一〇〇・〇〇
純收勘定ヨリ充當セラレタル資本銷却準備金	四,三三〇,四四四	九一・四一	四,三五八,五三三	九一・三一
合 計	四〇七,〇八五	八・五九	四一四,九一二	八・六九
合 計	四,七三七,五三九	一〇〇・〇〇	四,七七三,四四五	一〇〇・〇〇

(二) 貸借對照表

區 別	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
大藏省證券及電話資本ニ對スル未拂金	一〇,六八,九〇〇 <sup>磅</sup>	八八・九一	一〇,八〇七,六〇八 <sup>磅</sup>	八六・八六
工業 需品ノ 諸貸主へ	三五,五六五	〇・三〇	四七,一七五	〇・三八
立替 申込金及 諸貸主へ	八四三,八二九	七・〇六	一,一六九,〇六七	九・四〇
合 計	一一,四七二,六五四	一〇〇・〇〇	一一,〇八三,八五〇	一〇〇・〇〇

資産ノ部

大藏省ニ對スル未收入ノ未拂高	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
合 計	四四五,〇二四	三・七三	四一八,〇〇〇	三・三六
合 計	一一,四七二,六五四	一〇〇・〇〇	一一,〇八三,八五〇	一〇〇・〇〇

區 別	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
原 價 (設 備)	一〇,一六〇,五五三 <sup>磅</sup>	—	一〇,二一八,七〇七 <sup>磅</sup>	—
年 度 始ニ於テ	二二三,〇〇〇	—	—	—
電話事業ニ流用セラレタル準備	九,九三七,五五三	—	—	—
計	二八一,一五五	—	二二八,四三八	—
本 年 度 増	一〇,二一八,七〇七	—	一〇,四四七,一四五	—
年 度 末ニ於テ	四,三五八,五三三	—	四,五〇七,二六二	—
(不 足)資本銷却勘定ノ貸方ニ	五,八六〇,一七四	—	五,九三九,八八三	—
再 計	四三五,七七八	—	四〇七,六三八	—
在 庫 工 業 需 品	六四四,三八五	—	七九六,三二六	—
收入ニ對スル 諸債務者	—	—	—	—
合 計	六四四,三八五	—	七九六,三二六	—
合 計	一一,四七二,六五四	一〇〇・〇〇	一一,〇八三,八五〇	一〇〇・〇〇



收入勘定ニ於ケル現金手許有高	六四四、四六八	五四〇	七九〇、七五一	六三五
未銷却ニ關スル大藏省ヘノ負債	四、三五八、五三三	三六四九	四、五〇七、三六二	三六、二三
合計	一一、九四三、三三八	一〇〇・〇〇	一二、四一八、五〇	一〇〇・〇〇

五 電話事業

(イ) 收支勘定

科目	一九二四年度	割	一九二五年度	割
監理費及事務費	四、〇四四、八六四 <small>磅</small>	二七八一	四、一九三、一九五 <small>磅</small>	二六、八六
俸給手当及給與	三〇、八六〇	〇・三二	三二、五七一	〇・三〇
旅費法律事務費及雜費	四六、〇八三	〇・三三	五三、三三六	〇・三三
被服及雜需品				
合計				

會計検査官

エツチ・エヌ・バアン・バアリー  
一九二六年三月二十九日

科目	一九二四年度	割	一九二五年度	割
文房具及印刷物	二〇八、一五〇	一・四三	二三六、三九二	一・五三
設備維持費	四、三三〇、三二七	二九・七七	四、五二四、四八四	二八・九二
俸給手当及給與	一七七八、五三二	一・八二	一、八二四、六九八	一・六二
材料	一八五、八一五	一・二八	二〇三、五九〇	一・三〇
電線ノ税金	二五、〇三三	一・四八	二二七、四一六	一・三九
通 行 許 可	四八、五五四	〇・三三	四六、二三一	〇・三〇
鐵道會社ニ依ル電線ノ維持	一〇、五八七	〇・〇七	九、〇五二	〇・〇六
旅費其ノ他雜費	二二六、一三七	一・五五	二六〇、四五〇	一・六七
計	二、四〇四、六三七	一六・五三	二、五五一、四三七	一六・三四
賃借料其ノ他	二〇〇、五九〇	一・三八	二二三、七三三	一・五〇
郵便局所有資産	一三、一八七	〇・九一	一四六、三〇九	〇・九四
借入資産	一一、八六九	〇・七七	一〇九、六五八	〇・七〇
土地家屋税	四、九〇六	〇・二九	六一、八五四	〇・三九
細工物及家具				







剩餘	計	四六三,〇〇六	三,〇八三,二九七
----	---	---------	-----------

收入	計	六二〇	三,七二三,三七九
----	---	-----	-----------

科 目	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
收入勘定ヨリノ繰越金	七,三七〇,八二二		八,一〇九,七五九	
廣告特權使用料及商工人名簿録ノ販賣	一四,七三三	〇・八三	一三,六五五	〇・八〇
計	七,四九五,五五三		八,二三八,四一四	
繰越金	三,〇八三,二九七		三,七二三,三七九	
計	三,〇八三,二九七		三,七二三,三七九	

(ハ) 資本銷却計算

區 別	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
更新費	一,九〇一,六八六	一一・八一	二,〇〇七,四六八	一一・八八
俸給手当及給與				

材 料	計	一九二四年度	割 合	一九二五年度	割 合
鐵道會社ニ依リ爲サレタル更新費	五〇一,六九〇		三・二二	五九五,五六一	三・五三
運費旅費及雜費	一五,八八一		〇・一〇	一三,五七七	〇・〇八
運賃	五〇六,一七五		三・二四	六一七,二四九	三・六五
計	二,九二五,四三三		一八・二七	三,二三三,八五五	一九・一四
永久不要トナル設備	一,五七五		〇・〇一	二,五〇四	〇・〇一
締切	一三,一七四,九一六		八・八二	一三,六六三,三五三	八・八五
合 計	一六,一〇一,九二三		一〇〇・〇〇	一六,八九八,七二二	一〇〇・〇〇
繰越	一,二七五,七七六		七・九〇	一三,一七四,九一六	七・七六
純支計算ヨリ充當セラレタル銷却準備金	三,二五八,九五七		二〇・二四	三,七二三,六三二	二二・〇四
電信事務ヨリ充當セラレタル準備電線ノ銷却未濟	一七,〇〇〇		〇・七三	—	—
讓受設備ノ銷却未濟	一九〇		—	一七五	—
合 計	一六,一〇一,九二三		一〇〇・〇〇	一六,八九八,七二二	一〇〇・〇〇

(ニ) 貸借對照表



負債ノ部

區別	一九二四年度	割合	一九二五年度	割合
電信條例(一九二二—一九二五)ニヨル公債未済殘高(一九二一年ノ電話條例ノ分ヲ含ム)	四三,九三六,〇三七 <sup>磅</sup>		五三,三五三,七三三 <sup>磅</sup>	
大藏省證券未済殘高	二,一九七,四〇〇		一,八六〇,三〇〇	
大藏省立替金	二二,〇八七,五五五		二四,七二〇,五四九	
計	六八,二二三,九九三		七九,九三四,四八一	
(不足)				
土地建物及電信事務ニ充用シタル設備費	四,〇八一,六六三		四,九五五,一九一	
再計	六四,一四一,三二九	九五四二	七四,九七九,二九〇	九五八七
工業需品ノ諸貸主へ	二〇七,五六〇	〇三二	三六四,〇四四	〇四七
申込立替金及諸貸主へ				
他ヨリ提供ヲ受ケタル事務	一六二,〇四四	〇三四	一七八,一六五	〇三三
收入ニ對スル債務者	八六,一九九	〇一三	九九,六三一	〇一三
加入申込人へ	二,一五二,〇七〇	三・二〇	二,〇九九,五三六	二・六八

資産ノ部

區別	一九二四年度	割合	一九二五年度	割合
外國郵便局へノ債務	一八,九一八	〇〇三	四三,四八八	〇〇五
計	二四,一九,二三二	三六〇	二,四一九,八一〇	三〇九
大藏省ニ對スル未済收入ノ未拂高	四五〇,〇七八	〇六七	四四八,五一五	〇五七
計	六七,二八,一九八	一〇〇〇	七八,二一,六五九	一〇〇〇
原價(諸設備)				
年度始ニ於テ	六五,三六七,一三五 <sup>磅</sup>		七四,九八二,〇二二 <sup>磅</sup>	
電信事務ヨリ流用セラレタル豫備電線	二二三,〇〇〇			
本年度ニ於ケル増加	九,三九一,八八七		一〇,八七七,九八二	
年度末ニ於テ	七四,九八二,〇二二		八五,八五九,九九四	
(不足)資本銷却計算貸方ニ於ケル殘高	一三,一七四,九一六		一三,六六二,三五三	
計	六二,八〇七,〇九六	九・九五	七三,一九七,六四一	九三・三一
在庫工業需品	二,五四一,七九三	三・七八	三,一四五,六九三	四・〇二
			六二二三	



収入ニ對スル諸借主へ	一八三九、一三六	二七四	二、〇三八、九四七	二六二
現金手許有高	九八、一〇三	〇・二四	九九、八四二	〇・一三
收支計算ニ於テ	九三三、〇七〇	一・三九	七三九、五三六	〇・九三
加入者納金	一、〇三〇、一七三	一・五三	八二九、三七八	一・〇六
計	六七、二八一、一九八	一、〇〇〇	七八、三二一、六五九	一、〇〇〇

會計検査官 エツチ・エヌ・バンバアリー

一九二六年十二月二十九日

### 六 土地及建物

A 一九二五年度(一九二六年三月三十一日現在)收支計算

區別	一九二四年度	割合	一九二五年度	割合
支出				
土地				
資本金	一八九、二〇三	二四・六九	一九五、九三九	二三・二七

建物	計	一九二四年度	割合	一九二五年度	割合
資本銷却準備金	一、二〇、三五六	一、一五七	一・一三	一、一五〇	一・一三
資本銷却準備金	三三六、九九七	四三、九七	三八一、六〇五	四五・一三	
資本銷却準備金	四五七、三五三	五九、六八	五〇八、五三四	六〇・一四	
電燈電熱電力設備	八七、六〇五	一・一四	九六、〇七三	一・一三	
資本銷却準備金	二〇、六七七	二・七〇	二三、九五七	二・八四	
計	一〇八、二八二	一四・一三	一、二〇、三三〇	一四・二〇	
ブランクフイヤー發電所ノ設備	二〇〇	〇・二	二〇〇	〇・二	
及建物火災保險	一一、三五〇	一・四八	二〇、八五八	二・四七	
他ノ官廳ヨリ供給セラレタル屋	七六六、三八八	一、〇〇〇	八四五、五五一	一、〇〇〇	
舎費					
收入					
土地建物ニ對シ請求ヲ受クヘキ	三六六、一九五	五〇・三九	四一三、四八三	四八・九〇	
賃借料	一一八、五五八	一五・四七	一二四、〇九八	一四・六八	
郵便事務					
電信事務					



電話事務	二〇,五九〇	二六,二七	二三,七三三	二七,六四
計	七〇,五四三	九二,〇三	七七一,三二四	九一,二
他ノ官廳	二七,三三四	三五七	三六,五六三	四,三三
諸轉貸土地家屋ノ所有者	三三,七一一	四,四〇	三七,六七四	四,四六
計	六一,〇四五	七,九七	七四,二三七	八,七八
合 計	七六,三八八	一〇,〇〇	八四五,五五一	一〇,〇〇

六二六

B 一九二六年三月三十一日現在貸借對照表 (一九二五年度)

大藏省及電話資本計算ニ對スル負債	計	二〇,四二〇,四九〇	二〇,四二〇,四九〇
所有建物	計	二,三三一,九八九	六四〇,六八五
賃借土地建物	計	一,一〇,四五六	九六,〇七三
燈熱力ノ設備	計	二,三八,九三七	六四〇,六八五

賣却收入	六,三三九	二,四〇六	七三六,七五八
計	二,三四八,六八四	二,五七,八〇六	六五,五〇四
(不足)	二,五七,八〇六	二,九六三	六五,五〇四
棄却財産ノ原價及設備更新	計	二,三三,八八九	六七一,二五四

資産ノ部

區 別	所有土地	所有建物	貸借土地及建物	燈熱力等ノ設備	割合	計
一九二五年三月三十一日現在ノ原價	五,七四四,六六一	一〇,六七五,七四六	一,三七〇,二三〇	一,二〇七,九九五		
一九二五年度ニ於ケル純増	一六五,二二三	九四三,九六一	一三三,六三四	一三四,九七三		
資本銷却不足	五,九〇九,八七四	一一,六一九,七〇七	一,五〇三,八五四	一,三四二,九六八		
差引計	—	二,三三三,八九八	二五四,八四三	六七,二五四		
在庫工業需品	五,九〇九,八七四	九,二九六,八〇九	一,三四九,〇一一	六七,七二四		
資本銷却事務ニ對スル大藏省ノ負債					一五,九二	三,二四八,九九〇

六二七







MS 40







